令和３年度 設楽ダム関連発掘調査成果報告会

新設楽発見伝８

配付資料

配付資料目次

設楽ダム関連埋蔵文化財包蔵地（遺跡）と周辺遺跡 ・・・・・・・・・ 2

令和３年度　設楽ダム関連の発掘調査について　藤原　哲 ・・・・・・・・・ 4
（愛知県県民文化局文化部 文化芸術課 文化財室）

上ヲロウ・下ヲロウ遺跡の発掘調査　川添和暁 ・・・・・・・・・ 6
（愛知県埋蔵文化財センター）

下延坂遺跡の発掘調査　渡邉　峻・河嶋優輝 ・・・・ 8
（愛知県埋蔵文化財センター）

大崎遺跡の発掘調査　社本有弥 ・・・・・・・・・16
（愛知県埋蔵文化財センター）

笹平遺跡の室内整理調査　川添和暁 ・・・・・・・・・26
（愛知県埋蔵文化財センター）

年表 ・・・・・・・・・32

動画配信によるオンライン開催

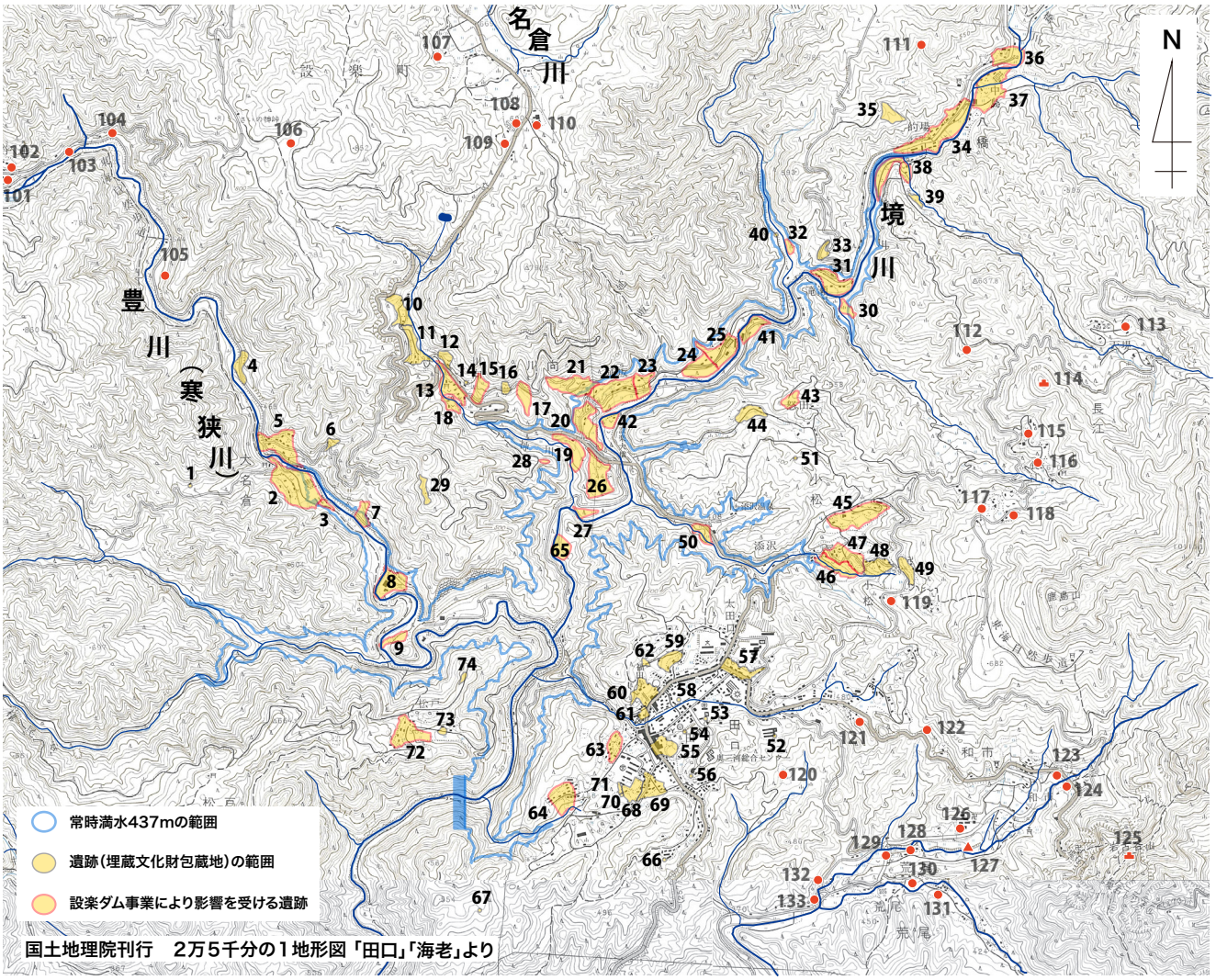
期間　令和４年３月 12 日（土）
～４月 11 日（月）

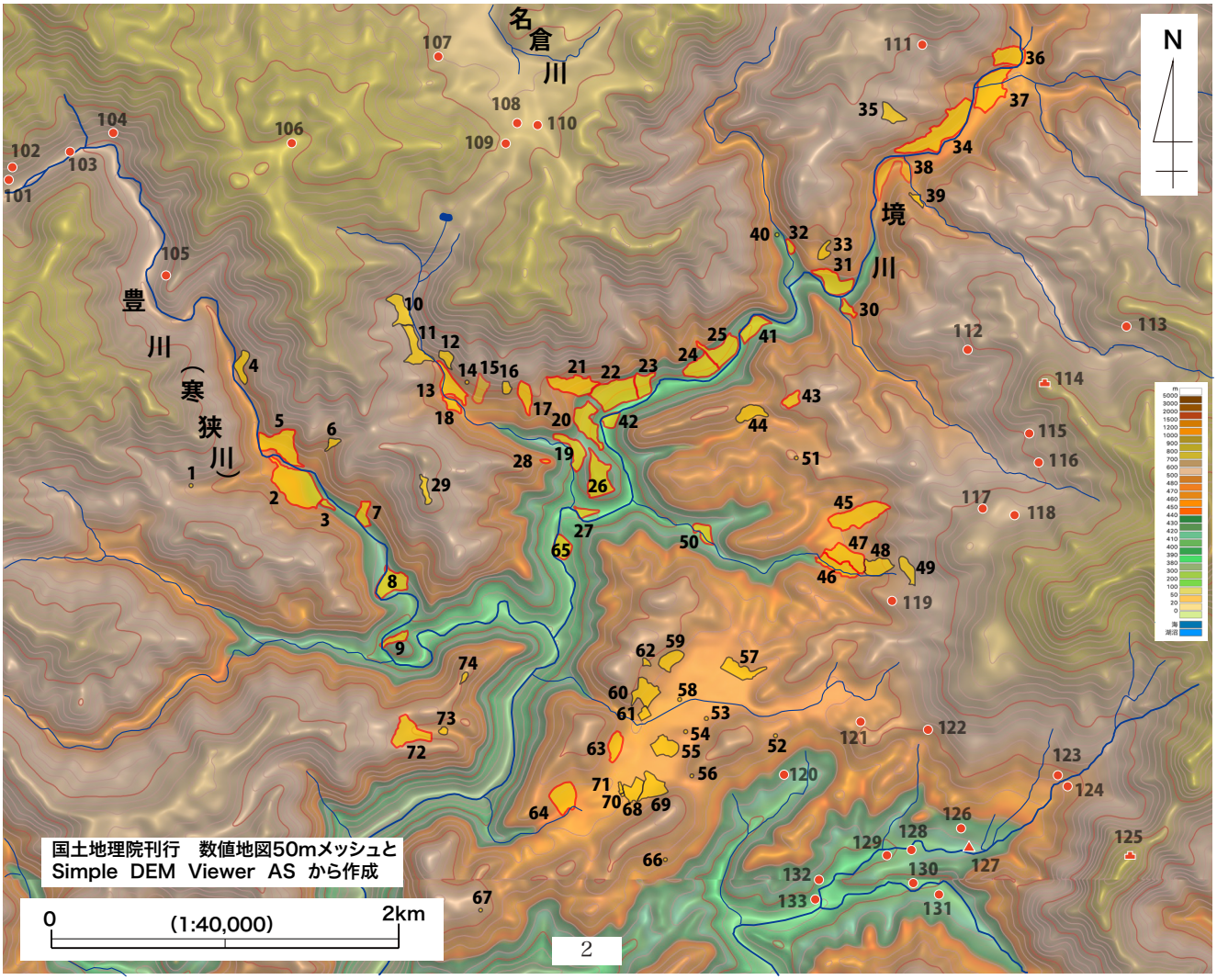
進行・司会　尾崎綾亮
（愛知県埋蔵文化財調査センター）

主催　設楽町教育委員会
国土交通省中部地方整備局設楽ダム工事事務所
（公財）愛知県教育・スポーツ振興財団　愛知県埋蔵文化財センター
愛知県県民文化局文化部　文化芸術課　文化財室
愛知県埋蔵文化財調査センター

表紙：大崎遺跡水田関連遺構

設楽ダム関連埋蔵文化財包蔵地（遺跡）と周辺遺跡の位置図（遺跡の番号は左表と一致）





設楽ダム関連埋蔵文化財包蔵地（遺跡）と周辺遺跡の一覧

本発掘調査A（事前調査）実施遺跡　本発掘調査B（全面調査）実施遺跡　発掘調査報告書刊行遺跡

地区（旧大字）	番号	遺跡名	読み	県遺跡番号	所在地	後期旧石器	縄文	弥生	古墳	飛鳥・奈良	平安	鎌倉	室町	戦国期｜近世初頭	備考
大名倉	1	沢入り遺跡	さわいり	700155	大名倉字沢入り		○	?							
大名倉	2	大名倉遺跡	おおなぐら	700297	大名倉字滝ノ上・滝ノ下・下谷・南貝津		○	○			○	○	○	○	下谷遺跡
大名倉	3	日掛遺跡	ひかげ	700328	大名倉字日掛										
大名倉	4	栢ノ久保遺跡	かやのくぼ	700151	大名倉字新蔵		○								
大名倉	5	西地・東地遺跡	にしじ・ひがしじ	700152	大名倉字西地・東地		○				○	○	○	○	
大名倉	6	後沢遺跡	うしろざわ	700154	大名倉字後沢		○								
大名倉	7	ハラビ平遺跡	はらびだいら	700157	大名倉字ハラビ平		○				○	○		○	
大名倉	8	胡桃窪遺跡	くるみくぼ	700158	大名倉字胡桃窪・丸山		○				○	○	○	○	
大名倉	9	大名倉丸山遺跡	おおなぐらまるやま	700347	大名倉字丸山									?	
川向	10	川向田ノ入遺跡	かわむきたのいり	700351	川向字田ノ入						○				
川向	11	三軒屋遺跡	さんげんや	700159	川向字三ゲンヤ		○					○			
川向	12	梨子谷下遺跡	なしやげ	700329	川向字梨子谷下						○	○			
川向	13	上戸神遺跡	かみとがみ	700160	川向字上戸神・下戸神		○				○	○	○	○	
川向	14	道合遺跡	みちあい	700161	川向字道合		○								
川向	15	川向萩ノ平沢遺跡	かわむきはぎのひらさわ	700352	川向字萩ノ平沢・小万		○				○				
川向	16	道上遺跡	みちあげ	700345	川向字萩ノ平沢・小万		○				○				
川向	17	川向力石遺跡	かわむきちからいし	700353	川向字萩ノ平沢・小万						○	○			
川向	18	川向向山遺跡	かわむきむかいやま	700354	川向字向山									○	
川向	19	大栗遺跡	おおぐり	700163	川向字大栗		○		◇		○		○	○	
川向	20	万瀬遺跡	まんぜ	700165	川向字マンゼ		○	◇	◇		○	○	○	○	
川向	21	大空前遺跡	おおぞらまえ	700166	川向字大空前・新直		○				○	○	○	○	
川向	22	上ヲロウ・下ヲロウ遺跡	かみおろう・しもおろう	700167	川向字上ヲロウ・下ヲロウ・中空		○	○			○	○	○	○	
川向	23	川向近沢遺跡	かわむきちかざわ	700355	川向字近沢・馬道		○				○	○	○	○	
川向	24	石原遺跡	いしはら	700170	川向字石原・ヒチコ		○								
川向	25	下延坂遺跡	しものべさか	700171	川向字下延坂・上延坂		○	○			○	○			
川向	26	大畑遺跡	おおはた	700164	川向字大畑・東貝津		○								
川向	27	川向東貝津遺跡	かわむきひがしがいつ	700348	川向字東貝津	◇	○				○	○			
川向	28	南ヶ岳遺跡	みなみがたけ	700162	川向字南ヶ岳		?				○				
川向	29	光石山候補地	みつ（ひかり）いしやま	城館関連地 089-003	川向字向山									?	
八橋	30	八橋大平遺跡	やつはしおおびら	700349	八橋字大平		○				○				
八橋	31	滝瀬遺跡	たきせ	700174	八橋字タキセ		○	◇					○	○	
八橋	32	根道外遺跡	ねみちそと	700173	八橋字根道外		○								
八橋	33	長久保遺跡	ながくぼ	700331	八橋字長久保		○								
八橋	34	中村遺跡	なかむら	700176	八橋字道上・道下・西路		○				○	○	○		
八橋	35	八橋アテ遺跡	やつはしあて	700356	八橋字アテ		○				○			○	
八橋	36	八橋谷合遺跡	やつはしやわせ	700350	八橋字谷合						○				
八橋	37	向橋遺跡	むこうばし	700178	八橋字向橋						○	○			向林遺跡
八橋	38	永江沢遺跡	ながえざわ	700175	八橋字崩沢		○					○	○		
八橋	39	八橋崩沢遺跡	やつはしなぎさわ	700357	八橋字崩沢		○								
八橋	40	境川林道遺跡	さかいがわりんどう	700330	八橋字コハツカ		○								黒曜石の原石のみ採取
小松	41	マサノ沢遺跡	まさのさわ	700172	小松字マサノサワ		○	○							
小松	42	笹平遺跡	ささだいら	700169	小松字笹平		○	○			○				
小松	43	丸瀬遺跡	まるせ	700184	小松字丸瀬		○								
小松	44	小松沢上ゲ遺跡	こまつさやげ	700358	小松字沢上ゲ						○		○	○	
小松	45	柿平遺跡	かきだいら	700189	小松字波根・東沢						○	○	○	○	
小松	46	中屋地遺跡	なかやじ	700190	小松字中屋地						○	○	○	○	
小松	47	下り道遺跡	くだりみち	700191	小松字下り道・中貝津・下中熊		○				○	○	○	○	
小松	48	下中熊遺跡	しもなかぐま	700192	小松字下中熊・中貝津						○	○	○	○	
小松	49	上中熊遺跡	かみなかぐま	700193	小松字上中熊						○	○	○	○	
田口	50	添沢遺跡	そえざわ	700188	田口字添沢		○				○	○			
田口	51	添津遺跡	そえづ	700187	田口字添津		○	?							
田口	52	一ノ橋遺跡	いちのはし	700197	田口字杉平向		○								
田口	53	向木屋遺跡	むかいぎや	700201	田口字向木屋			○							
田口	54	城下遺跡	しろした	700202	田口字小木山							?			
田口	55	天白遺跡	てんぱく	700203	田口字広貝津		○	○				○			
田口	56	向木屋城跡	むかいぎやじょうあと	700206	田口字向木屋									?	
田口	57	東遺跡	ひがし	700198	田口字谷下・白根土							○	○	○	
田口	58	稲場遺跡	いなば	700333	田口字辻前		○								
田口	59	中島遺跡	なかじま	700199	田口字中島		○				○		○	○	
田口	60	居立遺跡	いだて	700200	田口字居立			○	○				○	○	
田口	61	半兵衛屋敷（田口村古屋敷）	はんべえやしき（たぐちむらふるやしき）	703001	田口字小貝津									○	
田口	62	田口大久保遺跡	たぐちおおくぼ	700359	田口字大久保		○								
田口	63	田口西貝津遺跡	たぐちにしがいつ	700360	田口字西貝津						○	○	○	○	
田口	64	田口シウキ遺跡	たぐちしうき	700361	田口字シウキ						○	○	○		
田口	65	大崎遺跡	おおさき	700195	田口字大崎		○				○			?	
清崎	66	根ノ後遺跡	ねのご	700344	清崎字根ノ後		○								
清崎	67	大峯遺跡	おおみね	700226	清崎字大峯		○	?			○	○			
清崎	68	広畑遺跡	ひろはた	700204	清崎字広畑・狐洞						○	○	○	○	
清崎	69	萩平遺跡	はぎだいら	700205	清崎字山本・水口									○	
清崎	70	萩平村古屋敷	はぎだいらふるやしき	703005	清崎字狐洞									?	
清崎	71	重原藩田口代官所	しげはらはんたぐちだいかんしょ	703002	清崎字狐洞										近代
清崎	72	松戸遺跡	まつど	700334	松戸字家廻・向畑						○	○	○	○	
清崎	73	松戸下畑遺跡	まつどしたばた	700362	松戸字下畑							○	○		
清崎	74	松戸城跡	まつどじょうあと	703004	松戸字イサケトチ									?	
東納庫	101	大家下遺跡	おおやした	700147	東納庫字岩クラ							○	○		
東納庫	102	澄川口遺跡	すみかわぐち	700146	東納庫字澄川口								○		
東納庫	103	岩クラ遺跡	いわくら	700148	東納庫字岩クラ		○								
東納庫	104	長根遺跡	ながね	700149	東納庫字長根		○								
東納庫	105	長尾遺跡	ながお	700150	東納庫字長尾		○								
東納庫	106	菅沢山遺跡	すげさわやま	700143	東納庫字菅沢山			○							弥生は水神平式
川向	107	モロ田遺跡	もろだ	700137	川向字モロ田				○	○	○				
川向	108	市場口遺跡	いちばぐち	700138	川向字市場口	○									
川向	109	西長沢遺跡	にしながさわ	700139	川向字市場口		○								
川向	110	庄之子呂遺跡	しょうのころ	700140	川向字庄之子呂		○								
八橋	111	八橋杉平遺跡	やつはしすぎたいら	700177	八橋字杉平		○								
長江	112	御堂山遺跡	みどうやま	700181	長江字御堂山						○	○			
長江	113	天堤遺跡	あまづつみ	700180	長江字天堤			○							弥生は水神平式
長江	114	長江城跡	ながえじょう	700296	長江字松ヶ根							○	○		
長江	115	尊手平遺跡	そんでびら	700182	長江字尊手平		○								御物石器？
長江	116	本江遺跡	ほんえ	700183	長江字本江						○	○			
長江	117	寺トコ遺跡	てらとこ	700185	長江字田平							○			
長江	118	田平遺跡	ただいら	700184	長江字田平							○	○		
小松	119	下湯分沢遺跡	しもゆぶんざわ	700194	小松字下湯分沢		○					○			
田口	120	オリジ遺跡	おりじ	700207	田口字オリジ		○								
小松	121	小松杉平遺跡	こまつすぎだいら	700196	小松字杉平		○				○	○	○		
荒尾	122	寒相遺跡	かんぞう	700208	荒尾字寒相			○							弥生は水神平式含む
和市	123	清水遺跡	しみず	700209	和市字清水		○					○	○		
和市	124	和市場遺跡	わいちば	700210	和市字和市場		○						○		
荒尾	125	岩古谷城址	いわこや	700211	荒尾字岩古谷									○	
荒尾	126	宝ノ久保遺跡	ほうのくぼ	700212	荒尾字宝ノ久保		○					○			
荒尾	127	鐘鋳場跡	かねいば	700298	荒尾字欠田										近世
荒尾	128	欠田遺跡	かけだ	700213	荒尾字欠田		○						○		
荒尾	129	上杉沢遺跡	かみすぎのさわ	700214	荒尾字上杉沢		○								
荒尾	130	中村遺跡	なかむら	700215	荒尾字下貝津		○				○		○		
荒尾	131	上万場遺跡	かみまんば	700216	荒尾字上万場		○								
荒尾	132	野々瀬遺跡	ののせ	700217	荒尾字野々瀬		○								
荒尾	133	川角遺跡	かわかど	700218	荒尾字川角		○						○		

※　○・？は、詳細分布調査および遺跡地図による。◇は発掘調査で新たに見つかった時代

令和３年度　設楽ダム関連の発掘調査について

愛知県県民文化局文化部 文化芸術課 文化財室　藤原　哲

１．はじめに

２．令和年度設楽ダム関連の発掘調査について

○令和３年度発掘調査遺跡一覧

2･3頁遺跡番号	遺　　跡　　名	発掘調査の種別	令和３年度調査面積（㎡）
18	川向向山遺跡	本発掘調査A	20
22	上ヲロウ遺跡・下ヲロウ遺跡	本発掘調査B	1,020
25	下延坂遺跡	本発掘調査B	6,800
65	大崎遺跡	本発掘調査B	8,100
合　　計			15,940

３．開発事業と埋蔵文化財に関する諸手続きについて

（１）有無確認・現地踏査

○遺跡地図、資料・文献等で確認した上で現地踏査を行い、地表面を観察することで遺物の散布状況を確認し、遺跡の有無及び現状を把握するための調査をします。

（２）試掘・確認調査

○有無確認等で得た情報をもとに、地下の埋蔵文化財の状況を確認するため、必要な箇所を部分的に掘削する小規模な調査です。調査する場所が遺跡として周知されているか否かで、「試掘調査」と「確認調査」に区分されます。重機あるいは人力で掘削作業を行います。

【試掘調査】遺跡として台帳・地図に未記載で、周知もされていない場所について、「遺跡の有無」や「範囲・種類・残り具合」等を確認する調査です。

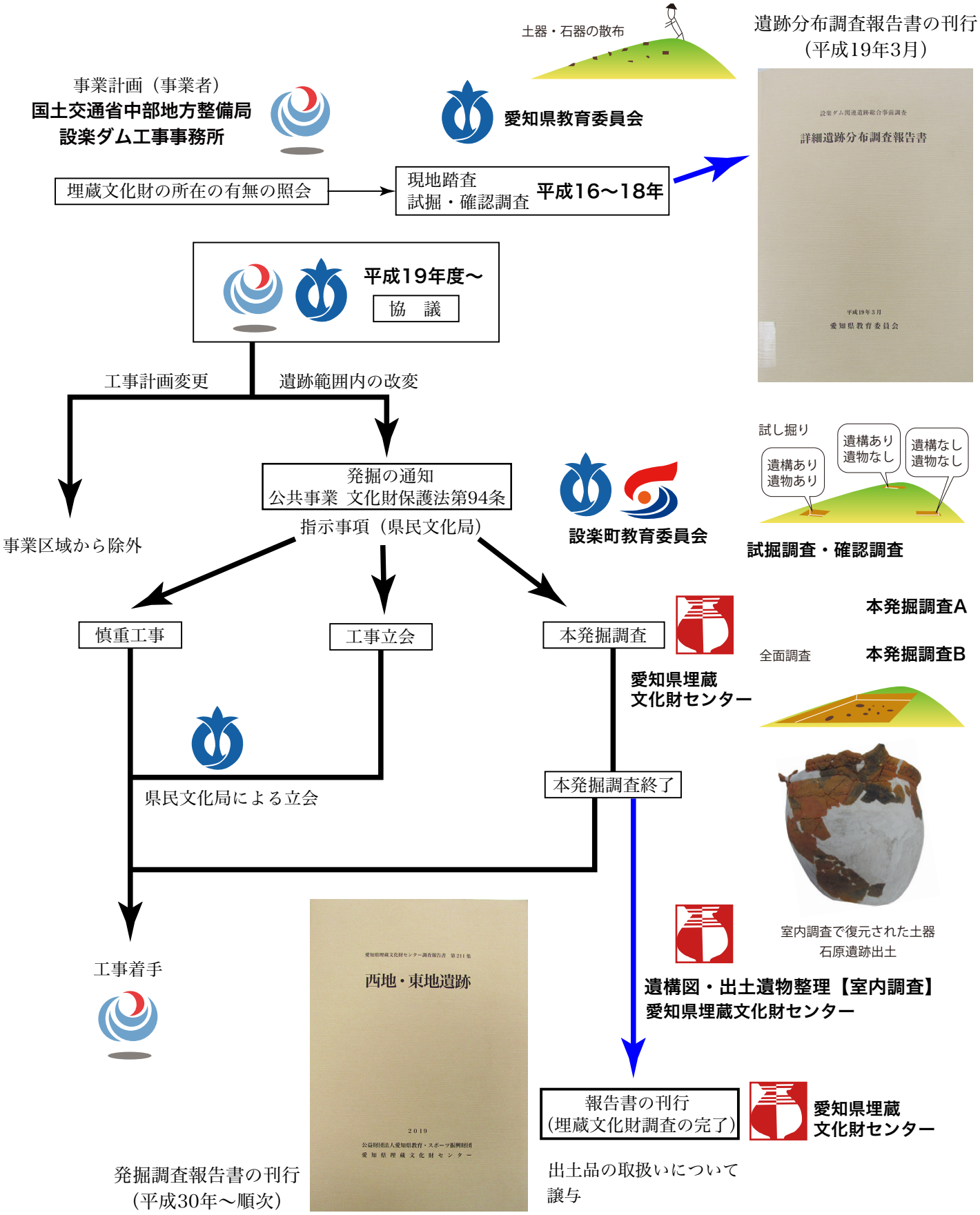
※遺跡がある場合、調査結果から、遺跡の取扱い（本発掘調査・工事立会・慎重工事）を決定します。

【確認調査】遺跡として既に記載され、周知されている場所について、「遺跡の範囲・種類・残り具合」等を確認する調査です。遺跡の取扱い（本発掘調査・工事立会・慎重工事）を決定します。

（３）本発掘調査

○公共事業によって滅失する遺跡の記録保存のために行う発掘調査です。調査対象地全面を発掘調査する「本発掘調査Ｂ」を基本とし、Ｂの実施前には、遺跡範囲・規模をさらに詳細に確認するために、事前調査「本発掘調査Ａ」を行います。

開発事業と埋蔵文化財に関する諸手続について



開発事業と埋蔵文化財調査の流れ

上ヲロウ・下ヲロウ遺跡の発掘調査

愛知県埋蔵文化財センター　川添 和暁

所在地：北設楽郡設楽町川向字上ヲロウほか（北緯35度06分51秒 東経137度34分05秒）
調査期間：令和３年5月～７月
調査面積：1,020㎡
調査担当者：樋上　昇・川添和暁・酒井俊彦

立地と環境

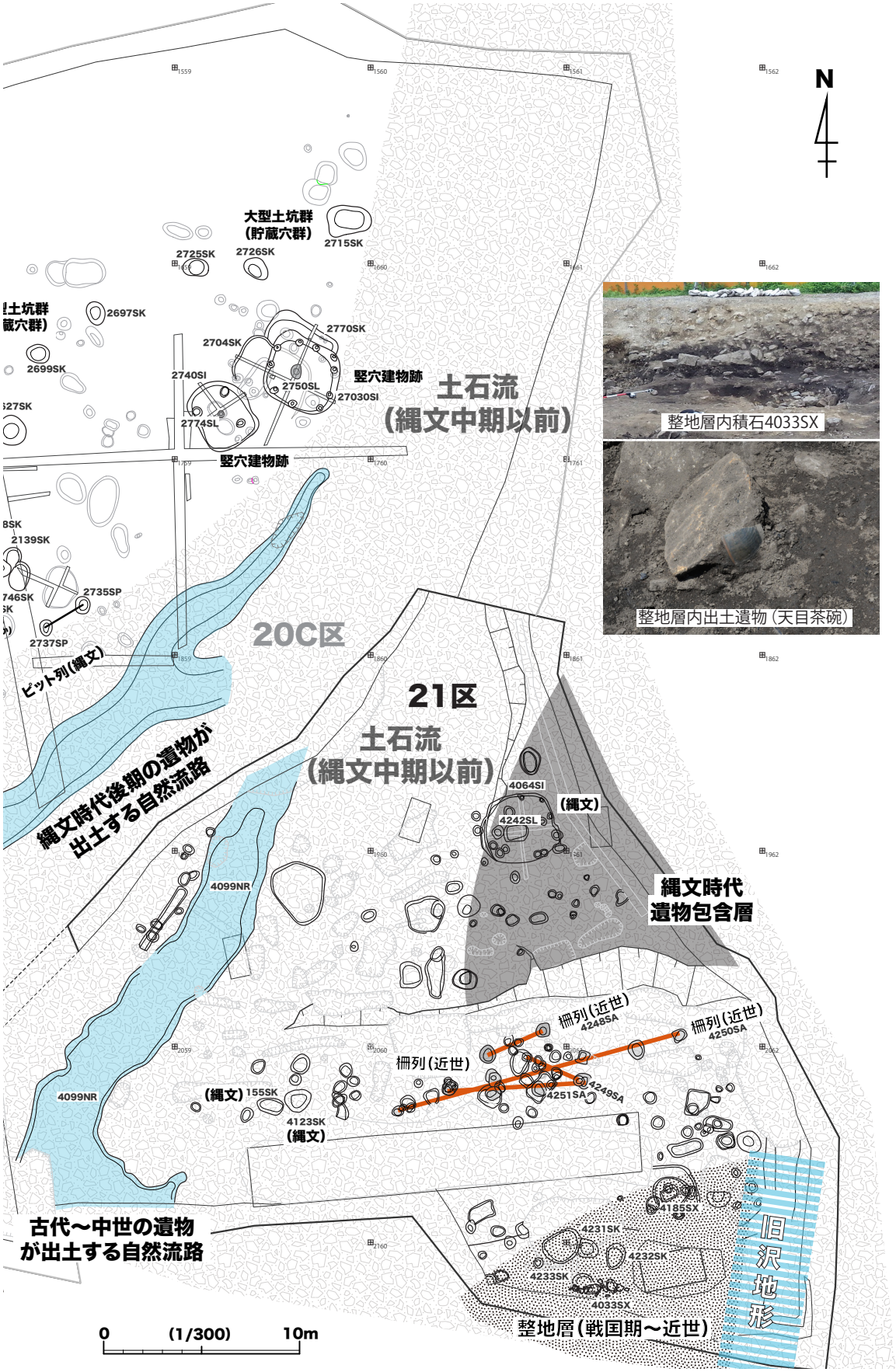
上ヲロウ・下ヲロウ遺跡は、境川北岸の緩斜面上に立地します。当地の地盤は、斜面の上方からの幾度かの扇状地堆積（土石流堆積）が幾重にも重なってできています。今年度の調査区（21区）は昨年度調査区20C区に接して、遺跡範囲の北東端部分に設定されました。標高は400～410mです。

調査の成果

昨年度調査区の20C区同様に、縄文時代前期以前に形成された明黄褐色礫層の上に、縄文時代後期、平安時代～鎌倉時代、そして戦国期～近世の、遺構・遺物が見つかりました。この明黄褐色礫層の堆積は、20C区・21区の境付近で馬の背状に一旦高くなるもののさらに南側県道に向かって地形の角度がやや急になります。この傾斜に従って、包含層の堆積のほか、上記の遺構・遺物の存在が確認されました。

今回、最もまとまって調査されたのは、南東側低位の平坦部に集中していた、戦国期～近世にかけての遺構・遺物でした。平坦部ではこの時期の土坑・柵列や炉跡の可能性もある集石遺構（4185SX）が見つかったほか、この平坦部自体も当時、土盛りをして造られたようで、南側に下がる斜面に向かって炭化物や陶器片などの遺物が多量に含まれていました。出土遺物により、この土盛（整地層）による平坦面の造成が、戦国期に遡るものであるものと確認されたのです。近世の村絵図などを見ますと、近世後半に宅地などの所在していた場所は、現在に至るまでそのまま宅地であった場合が多いようです。現代の宅地では、戦後から昭和50年代にかけて大きな造成が行われている場合が多いため、かつての集落の様子がそのまま残されている場所は、とても限られているのが実情です。本調査区では、西地・東地遺跡の調査以来、戦国期にさかのぼる集落跡の一端が調査された極めて貴重な事例となったといえます。

出土遺物としては、縄文土器、古代の灰釉陶器、中世の山茶碗のほか、天目茶碗・擂鉢・甕・内耳鍋・砥石など、戦国期～近世のものが多く見つかりました。（川添和暁）



上ヲロウ・下ヲロウ遺跡 21 区 全体図

下延坂遺跡の発掘調査

愛知県埋蔵文化財センター　渡邉　峻・河嶋 優輝

所在地：北設楽郡設楽町川向字上延坂・下延坂（北緯35度06分58秒 東経137度34分28秒）
調査期間：令和３年5月～11月
調査面積：6,800㎡
調査担当者：樋上　昇・渡邉　峻・河嶋優輝・社本有弥・宮腰健司

立地と環境

下延坂遺跡は境川右岸の河岸段丘から山麓の丘陵斜面に立地する遺跡です。本年度の調査区は、昨年の調査区20A区の山側の続きに21A区、境川右岸の川岸から町道79号までの間に、21B区と21C区を設定しました。21A区は山の斜面に沿った石垣の残る棚田となっており、一部に植林がされておりました。また、21B区と21C区はかつて養鶏場が存在し、コンクリートによる建物の基礎が一部残っていました。

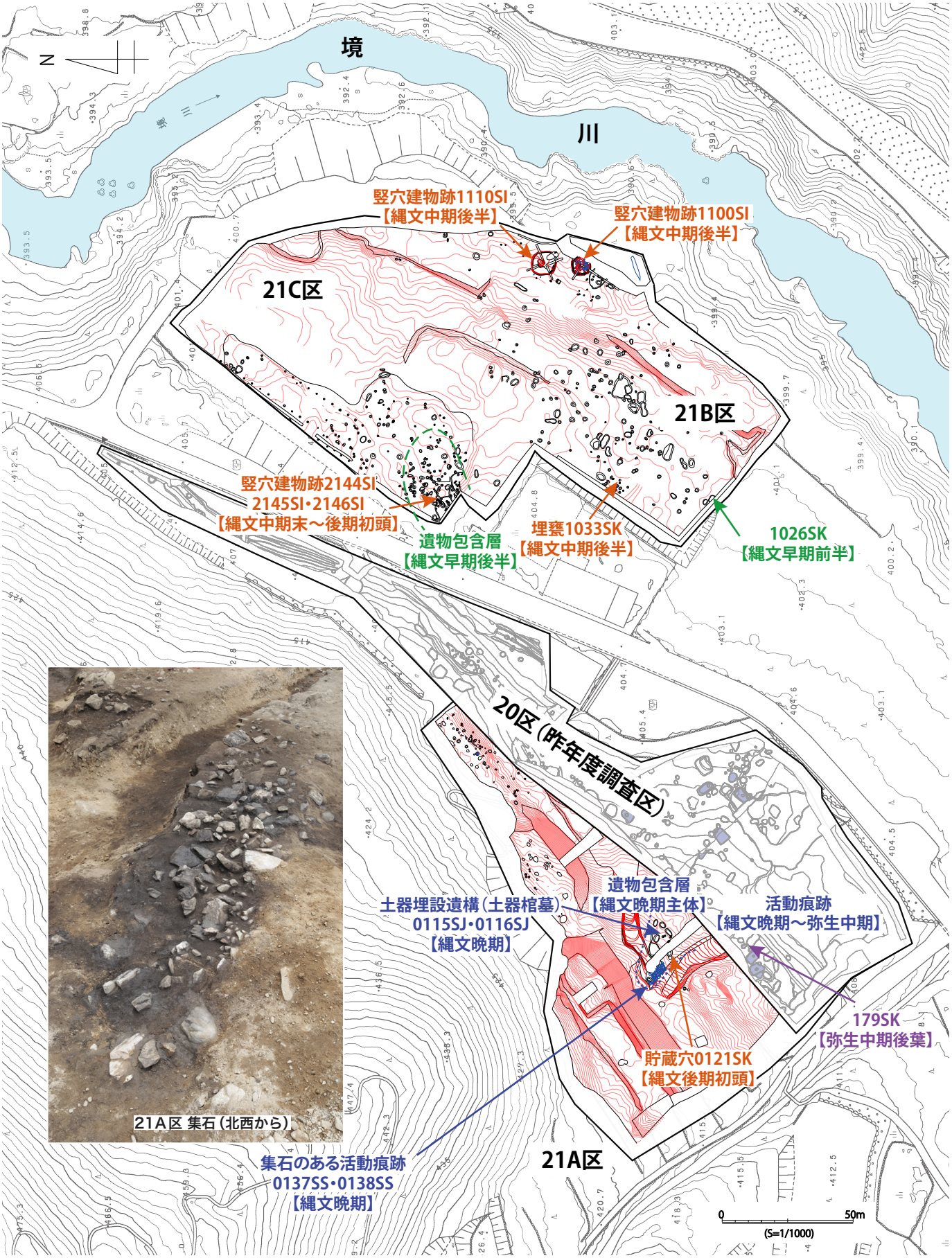
調査成果の概略

21A 区　北側では、一部で縄文時代後・晩期の土器片や石器を多数含む黒色砂質シルト層の遺物包含層が確認されました。この黒色土層の上面からは晩期の土器埋設遺構（土器棺墓）が２基検出されました。また、その下層からは、縄文時代後期初頭の貯蔵穴が１基検出されています。

21B 区　西側では縄文時代中期の埋甕１基、東側の 21C 区境付近では縄文時代中期後半の竪穴建物跡が２棟検出されました。特に、竪穴建物跡の埋土内に集石行為が行われた様子を詳細に調査できたのは、特筆されます。南端では、縄文時代早期前半の土器も出土しました。

下延坂遺跡 全景（北東から）

21C 区　南西側では縄文時代中期～後期の土器・石器が出土し、竪穴建物跡も３基確認されました。また、さらに下層からは縄文時代早期後半の遺物包含層が確認され、複数筋の自然流路の中からも、土器・石器がまとまって見つかりました。



下延坂遺跡 調査区全体図

21A 区

21A区の北側では、近世に属する複数の土坑や柱穴列を検出しました。一方、南側では大部分が土石流と思われる礫層によって削平されていますが、一部で縄文時代後・晩期の土器片や石器を多数含む黒色砂質シルト層の遺物包含層が確認されました。この黒色土層の上面からは縄文時代晩期の土器埋設遺構（土器棺墓）が2基、六文銭を伴う近世の墓跡が3基検出されました。また、その下層からは、縄文時代後期の貯蔵穴が１基検出されました。

土器埋設遺構（土器棺墓）0115SJ・0116SJ

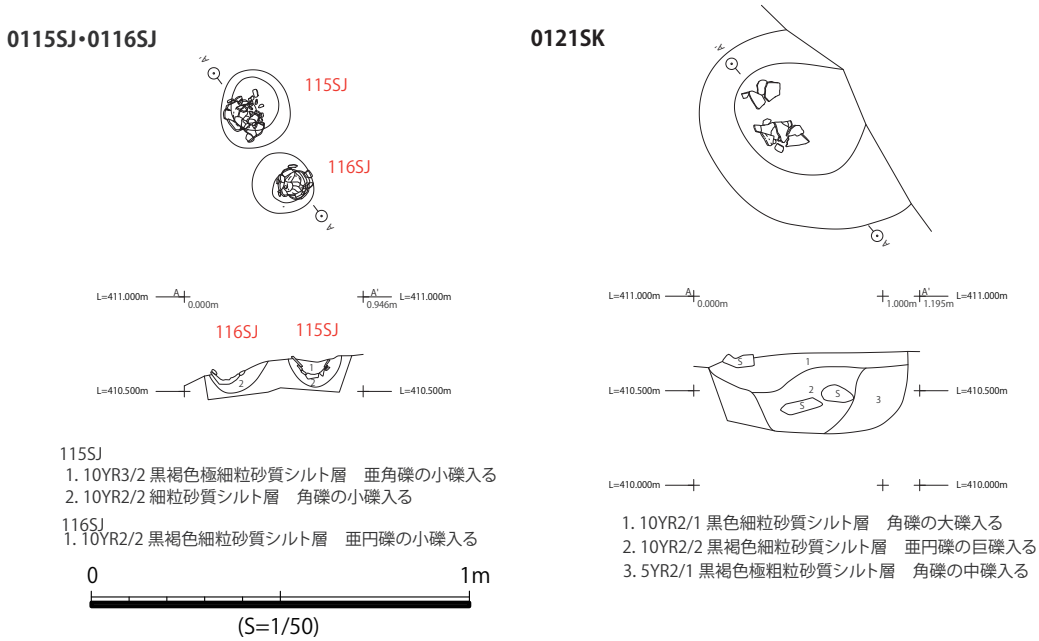
土器埋設遺構 0115SJ と 0116SJ は 21A 区の南側、縄文時代後・晩期の遺構を含む黒色土層付近で検出されました。土器は共に縄文時代晩期の土器と推測され、正位に埋設された状態で見つかりました。器種は共に深鉢と思われますが上部が削られており、0115SJ の土器は底部からおよそ 12 ㎝、0116SJ の土器は底部からおよそ９㎝が残存しているのみと、どちらもほとんど底部しか残存していませんでした。紋様はどちらも特に確認されず、また、どちらの土器もからも、明確な内容物は確認されませんでした。

貯蔵穴 0121SK

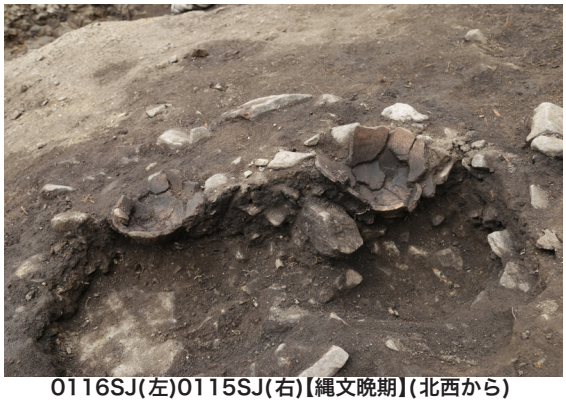
0121SKは黒色土層の下層より検出された遺構です。直径はおよそ110㎝で、深

下延坂遺跡 21A区 全景（完掘状況、南西から）

さは46㎝で複数の遺物が出土しています。埋土の上部で黒曜石（こくようせき）の剥片（はくへん）1点、埋土の下部で土器片が上下で２箇所でまとまって出土しました。これらの土器片は縄文後期初頭（こうきしょとう）のものと思われます。炭化物（たんかぶつ）は確認されませんでした（渡邉　峻）。



土器埋設遺構（土器棺墓）および貯蔵穴



0116SJ(左)0115SJ(右)【縄文晩期】(北西から)

0121SK土層断面【縄文後期初頭】(南から)

北側 柱穴列【近世】（東から）

0136SK出土の寛永通宝【近世】(東から)

21B 区

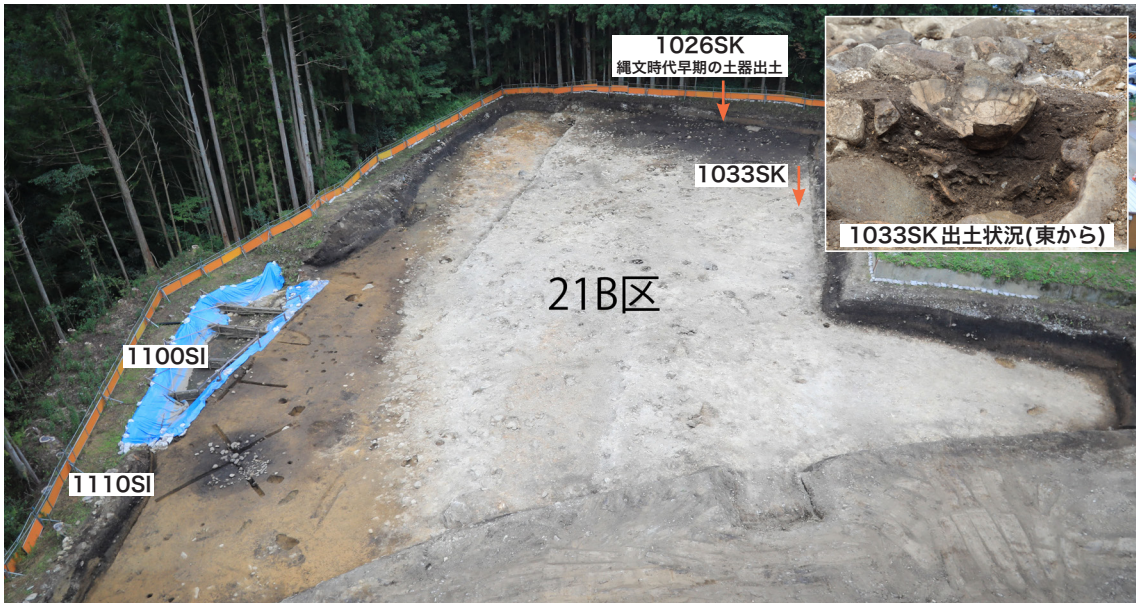
21B区の西側約3/4の範囲は削平により、埋甕（1033SK）を除き、建物跡等の痕跡は検出されていません。一方、削平を受けていない東側では縄文時代中期後半の竪穴建物跡が２棟検出されました。

竪穴建物跡 1100SI

1110SIは21B区東端部に位置する、集石を伴う隅丸方形の竪穴建物跡です。建物内に主柱穴は確認できませんが、壁際に複数の柱を建てる壁柱列構造であった可能性が考えられます。住居中央からやや北寄りに、石囲炉跡1242SLが存在します。集石遺構には69個の礫が含まれ、花こう岩、片麻岩、安山岩、砂質凝灰岩、溶結凝灰岩など、遺跡の周辺で採集できる石材で構成されています。出土遺物は、縄文土器、石器があり、住居の時期は、出土土器から縄文時代中期後半と推定されます。

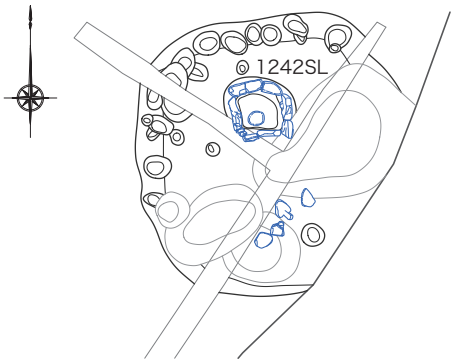
竪穴建物跡 1110SJ

1110SIは1010SIの北約3mに位置する、集石を伴う隅丸長方形の竪穴建物跡です。４箇所に主柱穴が確認されました。住居中央からやや北寄りに、石囲炉跡1249SLが存在します。炉石は一部が割れており、住居の廃絶に伴う人為的な破壊行為が行われた可能性が考えられます。また、炉の北東隅に副炉を伴う可能性があります。住居の廃絶後、ある程度覆土が流入した段階で、複数の土坑を掘り込み炭化物や焼土を埋めた様子が確認されました。集石遺構には最少でも538個の礫が含まれ、1100SIの集石と同様の石材で構成されています。出土遺物は、縄文土器、石器があり、住居の時期は、出土土器から縄文時代中期後半と推定されます。（河嶋優輝）



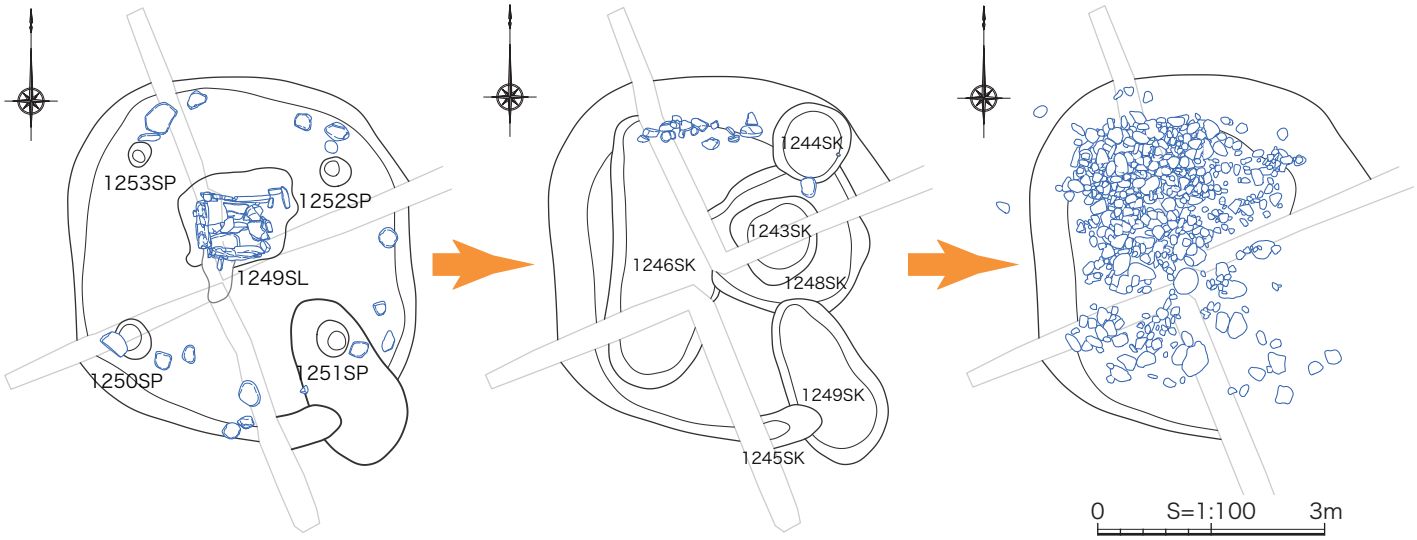
下延坂遺跡 21B区 全景（北東から）

1100SI



1100SJ(西から)

1110SI



竪穴建物跡床面　　廃絶後土坑群　　集石遺構

1110SI 集積遺構検出状況(南西から)

発掘調査の過程

1110SI掘方・柱穴完掘状況(北から)

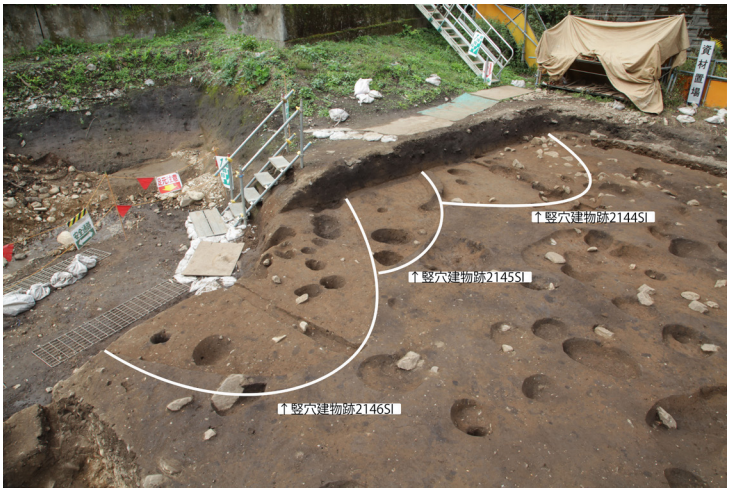
21C 区

21C区では、遺構は調査区の南西側で確認されました。縄文時代中期～後期の土器片や石器が出土し、調査区の南端では竪穴建物跡が３基、重複して検出されました。また南西側では縄文早期の繊維土器や、中・後期より古いと思われる石器などが下層で確認されたため、中・後期の遺構面より更に下層の2面目の調査を行ないました。その結果、複数のピット状の遺構と北から南へと流れた３本の自然流路と多数の石器が確認されました。

竪穴建物跡 2144SI・2145SI・2146SI

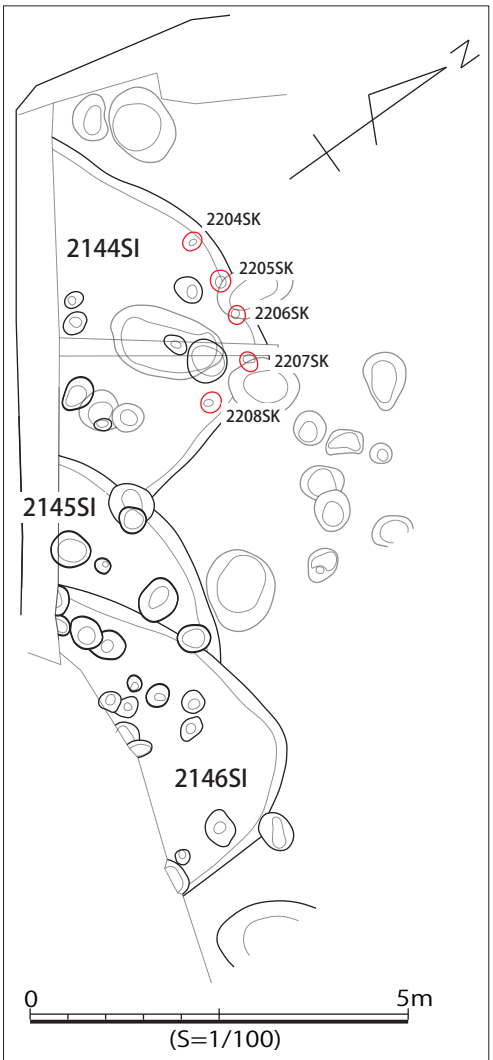
2144SI・2145SI・2146SIは21C区の南西隅で、縄文時代中・後期の黒褐色土層より重なって検出されました。2144SIは2145SIに、2145SIは2146SIに切られる形となります。2144SI、2145SIは調査区の法面になったため、2146SIは上層の撹乱が激しく、表土掘削時に誤って削平されてしまったため、全体の約半分のみ検出されました。2144SI・2146SIは一辺がおよそ４mの隅丸方形で、2144SIは東側の一部が2145SIによって切られています。2145SIは全体の凡そ4分の1のみ検出されたため、明確な形や大きさはわかりませんが、恐らくは円形だと思われます。2144SIは壁柱穴と思われる複数の土坑は確認されましたが、他２棟では明確な柱穴や炉跡は確認されませんでした。遺物は2146SIでは複数の縄文時代中・後期の土器片と石器（剥片）が複数出土しましたが、他の２棟ではあまり出土しませんでした。

下延坂遺跡 21C区 全景 １面目（北東から）



2144SI・2145SI・2146SI完掘状況(北東から)

C区 調査区２面目 (縄文時代早期)完掘状況(南西から)



2144SI・2145SI・2146SI

C区 南壁 土層断面(北東から)

自然流路 2266NR・2267NR・2268NR

自然流路2266NR、2267NR、2268NRは21C区南西で確認され、縄文時代早期後半の遺物包含層を削りこんで形成されています。流路内は多数の礫と、多くの石器(剥片)が見つかっており、石器の材質はほとんどが安山岩です。大きなものでは長さが15cm近い石器も複数出土しています。(渡邉　峻)

大崎（おおさき）遺跡の発掘調査

愛知県埋蔵文化財センター　社本有弥

所在地：北設楽郡設楽町田口字大崎（北緯35度06分18秒 東経137度33分50秒）
調査期間：令和３年８月～令和４年１月
調査面積：8,100㎡
調査担当者：樋上　昇・川添和暁・社本有弥・河嶋優輝・宮腰健司・渡邉　峻・酒井俊彦

立地と環境

大崎遺跡は境川（さかいがわ）左岸、河岸段丘状（かがんだんきゅう）の緩斜面（かんしゃめん）上に立地しています。田口集落の西から境川に向かって伸びている丘陵尾根の末端付近に当たり、北と東には丘陵尾根が広がっています。遺跡の北東側にはこれら尾根に挟まれた谷地形があり、その末端からは湧水が確認されています。北東の谷地形からやや急な傾斜が続き、中央付近で傾斜が変化し、南西部に向かって緩斜面地が広がっています。

大崎遺跡の基本層序

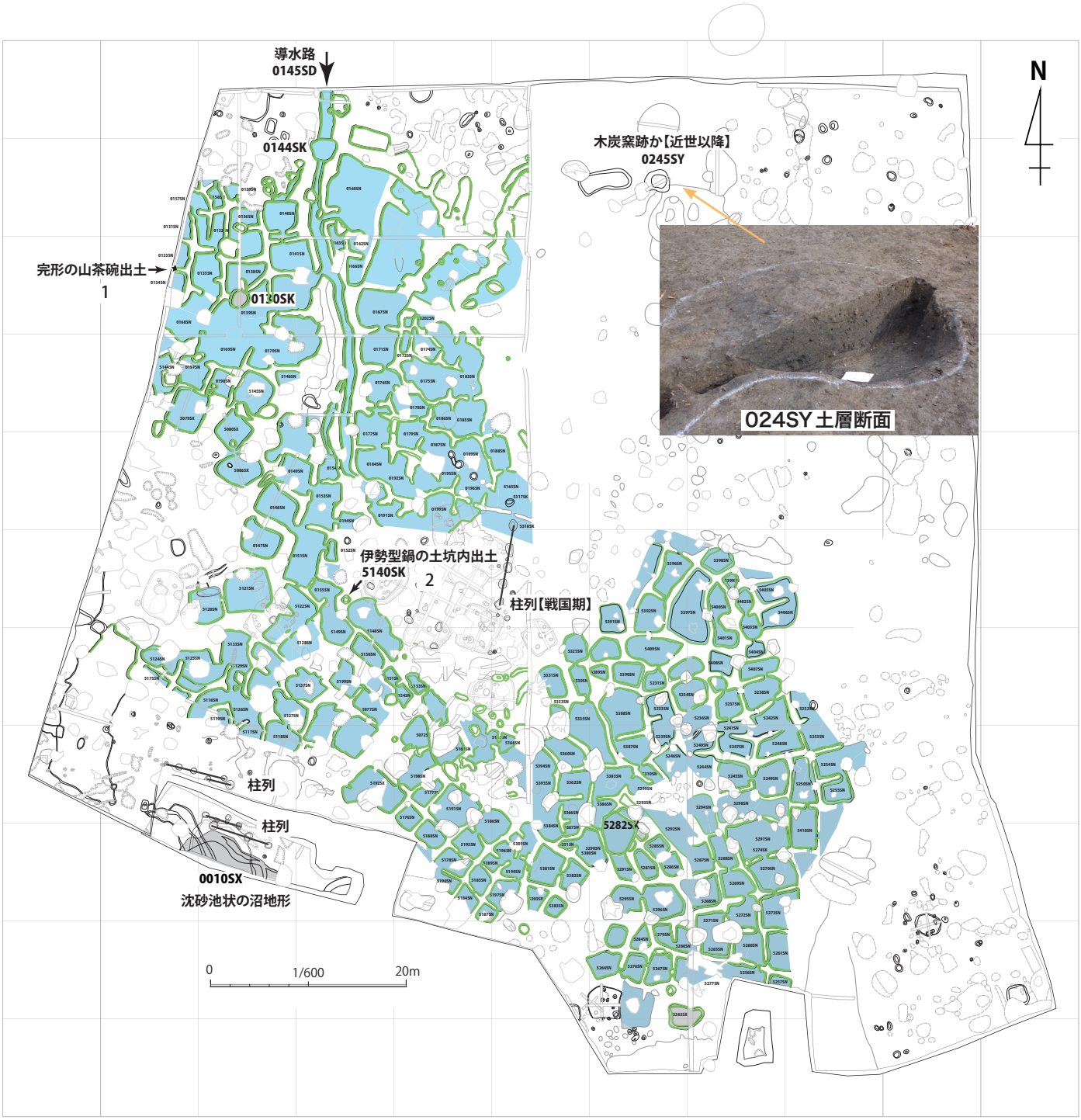
大崎遺跡で確認された遺構は、Ⅰ層（表土）：近世から近代、Ⅱ層（灰黄褐色粘土層）：中世ごろ、Ⅲ層（にぶい黄褐色粘土・シルト層）：縄文時代中期後半から弥生時代中期後葉、Ⅳ層（黒色粘土・シルト層）、Ⅴ層（明黄褐色粘土・シルト・砂・砂礫層）：縄文時代早期ごろの遺構・遺物が、各層中あるいは層の直上で見つかっています。今回の調査で特に注目される調査成果は、鎌倉時代頃と考えられる水田跡と、縄文時代～弥生時代の集落跡です。これらを中心にご報告します。

調査成果１【鎌倉時代の水田関連遺構】

水田（すいでん）関連遺構は、調査区西半分から南東部分の緩斜面地に広がっていました。水田

大崎遺跡で確認された遺構・遺物の層と時期

時代・時期	検出・出土層	遺構（基数）	遺物
近世以降	Ⅰ層、Ⅲ層上面	集石遺構（5）、木炭窯（1）	陶器片?
戦国期～近世	Ⅱ層中およびⅢ層上面	ピット列（1）、一部の水田関連遺構	陶器片
中世前半		水田関連遺構【畦畔および導水路、沼地形およびピット列（2）】	山茶碗類【碗・小皿】・伊勢型鍋
古代			灰釉陶器【椀・皿】
弥生時代後期			台付甕片など
縄文時代中期～弥生時代中期	Ⅱ層下およびⅢ層上面	竪穴建物跡（19）、土坑墓（4）、包含層	縄文土器【深鉢・注口土器】、弥生土器【壺・深鉢・甕】、石器【石鏃・石匙・スクレイパー・打製石斧・刃器・礫器・剥片石核類・磨製石斧・有溝石錘・磨石敲石類・石皿台石類】、石製品【石棒石刀類・岩偶岩版類】
縄文時代早期以前	Ⅴ層直上	煙道付炉穴（1）、土坑群（3）	剥片



大崎遺跡全体図（中世以降）

関連遺構は水を引くための溝と一辺4mの区画を形成する畦畔（けいはん）、畦畔内の作土（さくど）で構成されていました。緩斜面地のため、小区画（しょうくかく）の作地を造成することが最も良い形だったと思われます。

導水路（どうすいろ）と考えられる溝は調査区の北西部で確認されました(0145SD)。この溝は南に進むに従ってこの導水路自体を畦畔として利用していたようです。また、この導水

大崎遺跡全景（南西から）

0145SD導水路（北から）

水田関連遺構検出状況

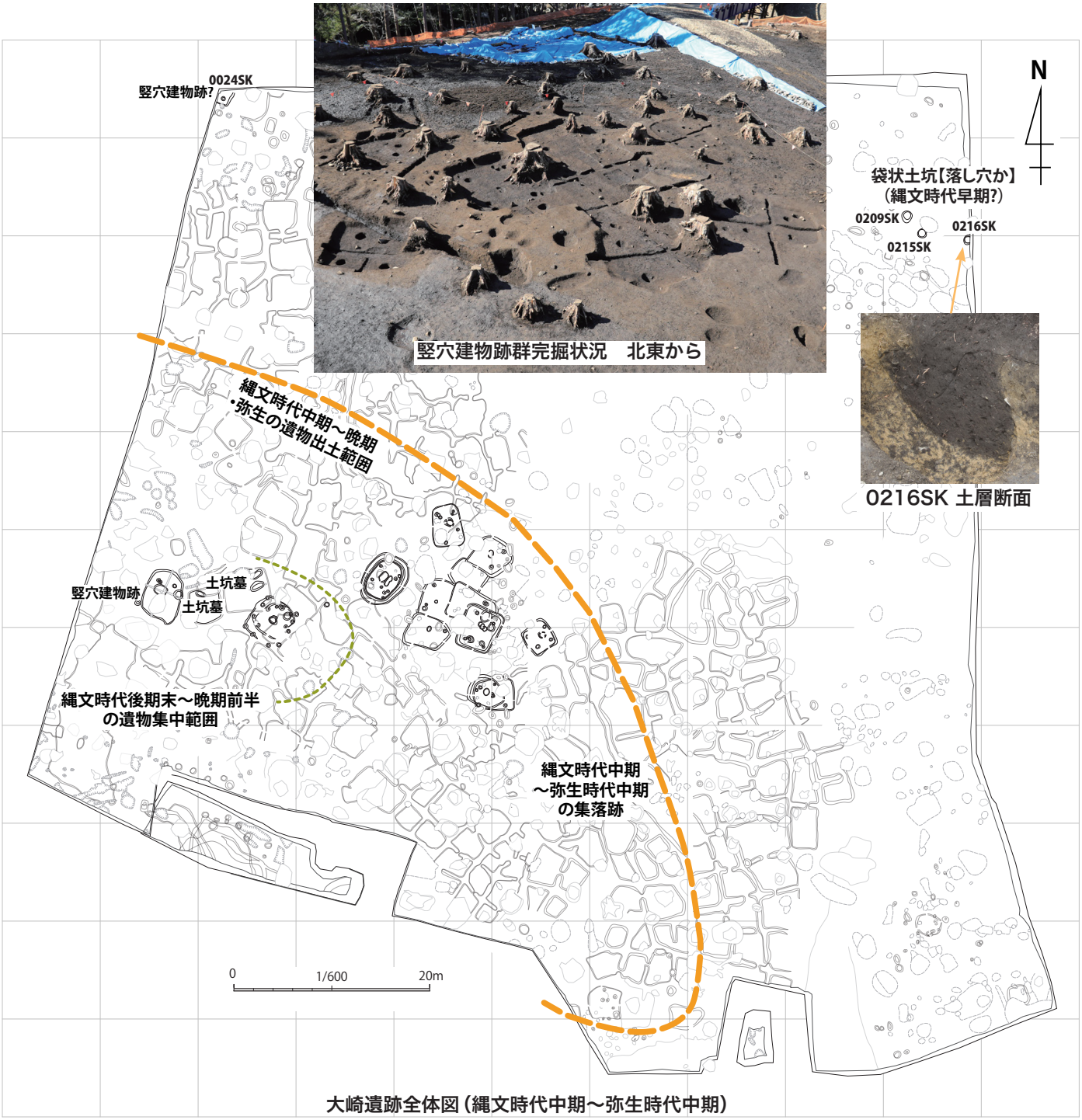
水田関連遺構近景　（上が南）

5140SK 伊勢型鍋出土状況

灰釉陶器 椀 出土状況

路内には大きな落ち込みが見つかっています(0144SK)。中からは礫が多く出土しており、水流を調整する施設であった可能性があります。

水田関連遺構は部分的に改修・改変が継続して行われており、畦畔部分の土層断面からもその状況が伺えました。このような畦畔内から山茶碗（やまぢゃわん）や、土坑内から13世紀の前半ごろと思われる伊勢型鍋（いせがたなべ）が出土しています。水田関連遺構の時期については難しいところですが、まずは出土遺物の時期から鎌倉時代の所産である可能性が高いと考えています。ですがB区では、これらの水田と重複する近世（きんせい）の水田が存在しているほか、21B区南部では平安（へいあん）時代の灰釉陶器（かいゆうとうき）が多く出土していることから、時代の



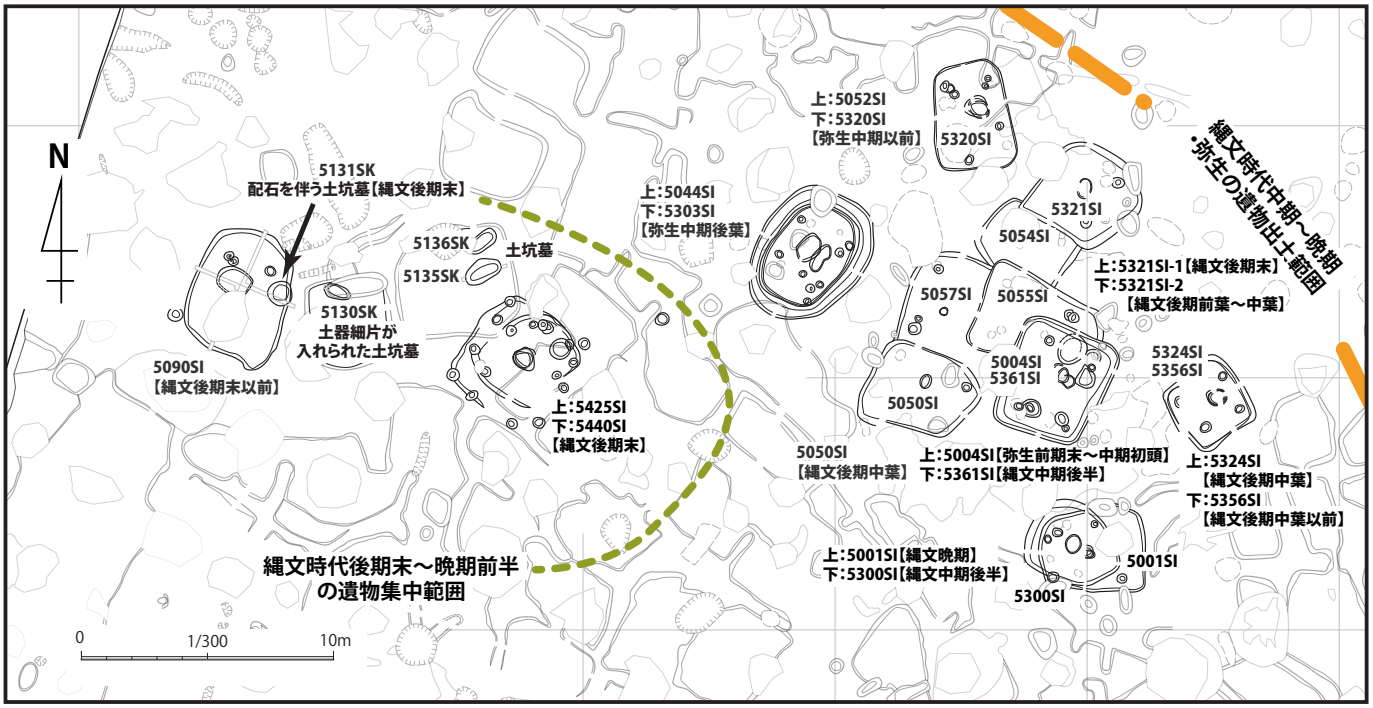
大崎遺跡全体図（縄文時代中期～弥生時代中期）

遡る水田関連遺構もあった可能性があります。

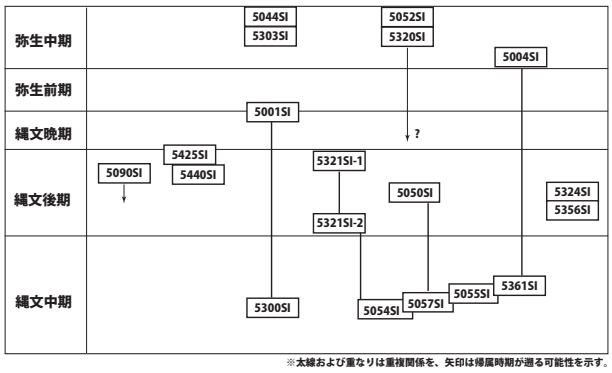
北東側の斜面地では木炭窯（もくたんがま）と思われる土坑を確認しました。平面形状は直径約2.0～2.5mの不整な円形で、残存する深さは約60cm、遺構西側は植生痕によって破壊され、遺構上部は削平されていました。出土遺物はなく、少数の炭化木材が出土するのみでした。時期は不明ですが、近世後半以降のものと考えられます。

調査成果２【縄文時代～弥生時代の集落跡】

縄文（じょうもん）時代・弥生（やよい）時代の集落跡が見つかったのは調査区の中央付近とその西側です。



縄文時代中期〜弥生時代の集落域



竪穴建物跡の重複関係

竪穴建物跡（たてあなたてものあと）は、同じ場所の重複も含めて計19棟を確認しました。竪穴建物跡が集中していた箇所は水田関連遺構を確認したⅡ層の堆積が薄い地点でした。

調査区の南西部一帯では、縄文時代中期前半以降から弥生時代後期までの土器等の遺物が広範囲で確認されています。しかし、竪穴建物跡が集中して確認された箇所では、縄文時代中期後半から弥生時代中期までの遺物が出土していました。

また竪穴建物跡の集中地点から少し西側では、縄文時代後期末（こうきまつ）〜晩期（ばんき）にかけての遺物が集中しており、Ⅱ層の下層にこの時期の包含層が、耕作土として撹拌（かくはん）されることなく残存していたものと思われます。

竪穴建物跡は縄文時代中期後半から後期にかけてのものが多い一方で、弥生時代中期初頭、弥生時代中期後葉に属するものもあり、長い時代にわたって、居住場所として選ばれていた様子を見ることができます。

大崎遺跡では一つの時期に1棟あるいは2棟程度の集落を形成していたと思われます。今回の調査で確認できた時期のうち、最も内容が充実していたのは縄文時代後期

竪穴建物跡検出状況 5004SI付近（北から）

竪穴建物跡完掘状況 5356SI付近（南東から）

石囲炉のある竪穴建物跡 5425SI（南から）

配石を伴う土坑墓 5131SK（南西から）

礫がまとまって出土した竪穴建物跡 5004SI（東から）

小判型の竪穴建物跡 5044SI（南西から）

末から晩期の集落でした。竪穴建物跡のほかに埋葬遺構が確認され、廃棄行為などによって包含層の形成が行われていたことがわかっています。この包含層からは、土器片のほか、石棒石刀類や岩偶岩版類が出土しています。この時期の竪穴建物跡を見ていくと、石囲炉跡の他、地床炉跡や石囲炉跡の掘り込み土坑が確認されました。

今回の調査で確認された埋葬遺構は4基でした。特筆されるものとして、埋土内から岩偶岩版類片と磨製石斧が出土し、埋土上位などに配石行為が実施された土坑墓や、大型の土器片から細片化した土器片まで埋土に多数の土器片含まれていた土坑

煙道付炉穴検出状況（左）と土層断面（右）（いずれも東から）

墓が見つかっています。いずれの遺構からも骨片などの出土は確認できていません。

弥生時代の竪穴建物跡は５棟見つかっており、時期は弥生時代前期末から中期後葉ごろになります。特に弥生時代中期後葉の竪穴建物跡（5044SI・5303SI）は他の竪穴建物跡と違い、小判型を呈していました。またこの竪穴建物跡には周堤が伴っていたことがわかっています。

縄文時代の遺構としては、このほかに煙道付炉穴と袋状土坑が３基確認されました。煙道付炉穴は調査区南西端のＶ層直上で見つかったもので、遺構に伴った土器の出土は確認されませんでしたが、縄文時代早期に属するものの可能性があります。一方、袋状土坑は21B区北東端の、斜面地でもやや傾斜の緩い一帯に位置で確認されました。深さは0216SKで約50cmであり、形状から落とし穴の可能性があります。出土遺物はなく時期は不明ですが、おそらく縄文時代のものと思われます。

出土遺物

今回の調査で出土した遺物は主に、土器・陶器・石器・石製品です。縄文土器には、深鉢のほか注口土器も確認されています。しかし、注口土器の注口部の出土は多くなく、壺形を呈する口縁部や胴部が多く出土していました。弥生土器では、壺や深鉢のほか、台付甕の出土が確認されています。

石器は、石鏃・石匙・スクレイパー・打製石斧・刃器・礫器・剥片石核類・磨製石斧・有溝石錘・磨石敲石類・石皿台石類とさまざまな種類の石器が出土しています。特に、調査区全体から出土する安山岩製の石器は、境川の河床で採取されるものと考えられます。これまでの調査でも、打製石斧・刃器・礫器などの大型の打製石器を対象とした石材として安山岩が集中して使用されていることがわかっています。

大崎遺跡でも、石製品が確認されており、石棒や岩偶岩版類が出土しています。特に岩偶岩版類は2点出土しており、砂岩あるいは凝灰質砂岩製で、破片で見つかっています。注目すべきはそのうちの1点は5131SKという配石を伴う土坑墓の埋土から出土しており、この岩偶岩版類の性格を伺える好材料と言えます。（社本有弥）

縄文時代中期の土器

縄文時代中期の土器

弥生時代前期末～中期初頭の土器

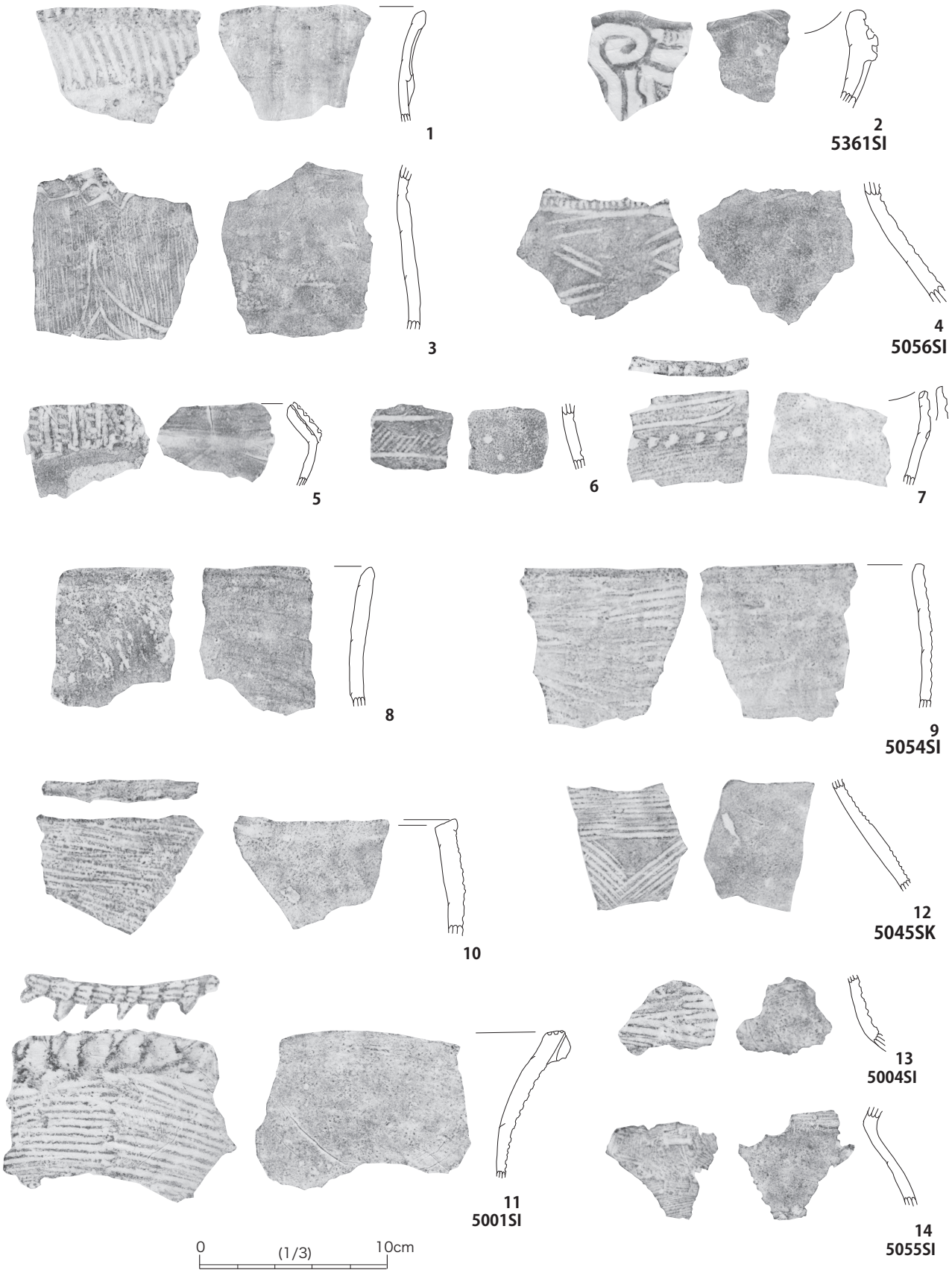
弥生時代中期の土器

土坑墓より出土した磨製石斧

岩偶岩版類(縄文時代後期末～晩期)

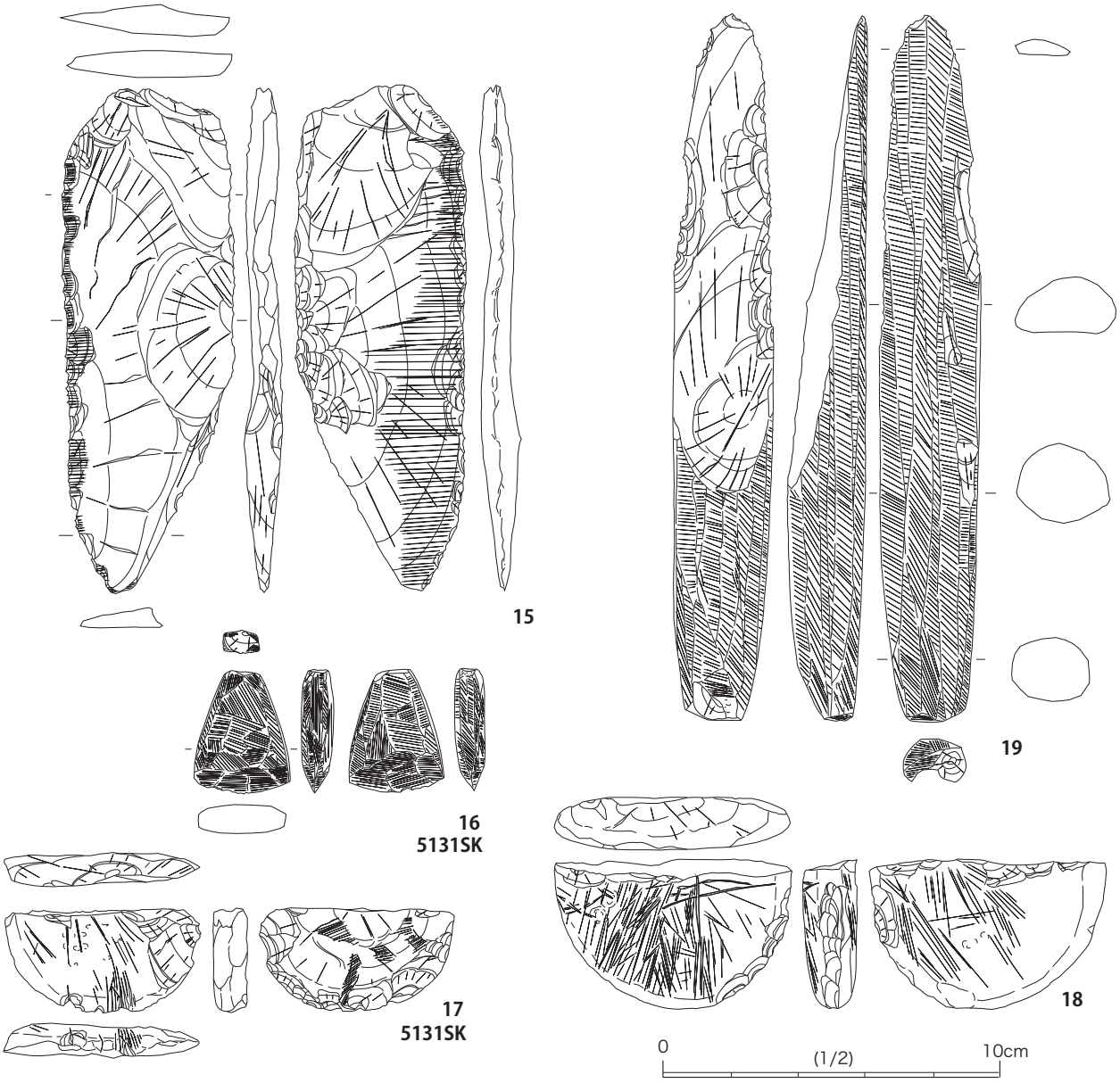
石匙出土状況

削器出土状況

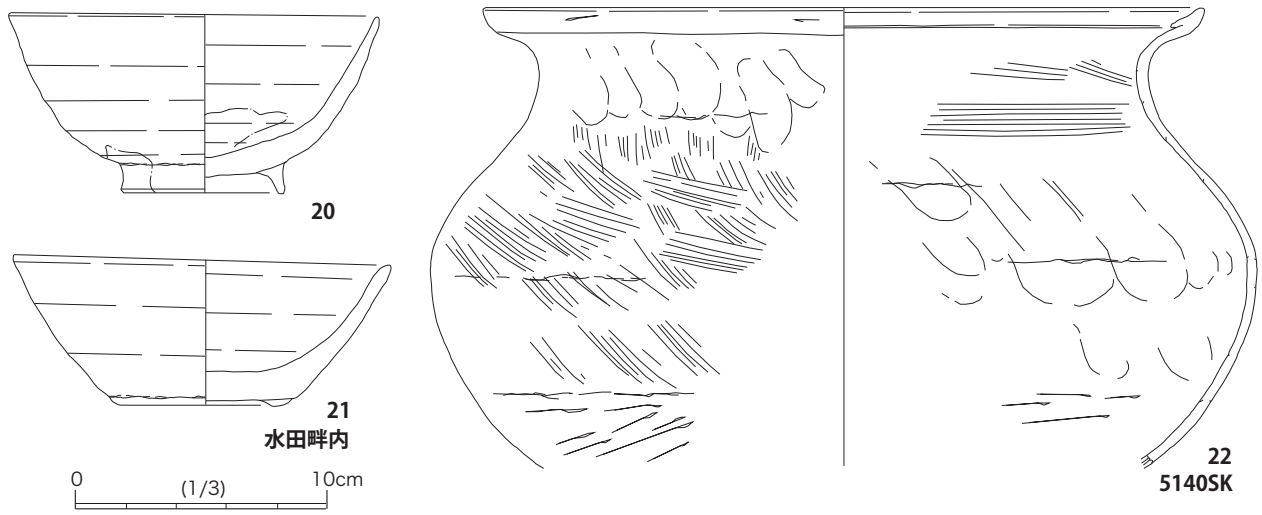


大崎遺跡出土　縄文土器・弥生土器

上図では出土遺構に関わらず、今回の調査で確認された土器を時代・時期順に並べてあります。縄文時代中期前半(1)・中期後半(2)から活動の痕跡が明確となり、後期初頭(3)も目立ちます。その後の後期前葉前半までの活動痕跡は低調のようですが、後期中葉の後半(4〜6)以降に再び活発になり、後期後葉・末、さらに晩期前葉の資料が多く出土しています(7)。縄文時代晩期の土器としては、ナデ・ケズリ・二枚貝条痕(9)の器面調整を主体とする資料が多いようです。さらに今回の調査では、縄文時代晩期末〜弥生時代前期・中期の条痕文系土器がまとまって出土しました(10〜13)。また弥生時代中期後葉のものと思われるハケ目調整のある甕も出土しています(14)。(川添和暁)



大崎遺跡出土　石器・石製品



大崎遺跡出土　古代・中世の陶器・土器

15は刃器、16は磨製石斧、17・18は岩偶岩版類、19は石棒石刀類です。16・17は配石を伴う土坑墓5131SKから出土したものです。15は地元の安山岩製で、境川の河原から集められた石材を積極的に使用しています。

20は灰釉陶器　椀、21は山茶碗、22は伊勢型鍋です。21はアゼ内からの出土資料で、22もアゼ内に設けられた土坑5140SK内から出土したものです。水田関連遺構の年代を考える上で、注目すべき資料といえます。(川添和暁)

笹平遺跡の室内整理調査

愛知県埋蔵文化財センター　川添 和暁

所在地：北設楽郡設楽町小松字笹平（北緯35度06分45秒 東経137度34分01秒）
発掘調査期間：平成27年5月～12月　　調査面積：6,930㎡
室内整理調査期間：平成31年4月～令和３年３月【担当者：鈴木正貴・川添和暁】
報告書刊行予定：令和４年３月末

整理調査の概要

笹平遺跡では、発掘調査で出土した遺物は、27 リットルコンテナ 459 箱分ありました。ここでは、遺物洗浄後、室内整理調査がどのような経過で実施されたかを、お伝えします。室内整理調査に関わる各作業および段階には、資料の出土情報などを書き込む注記のほか、以下の様なものがあります。

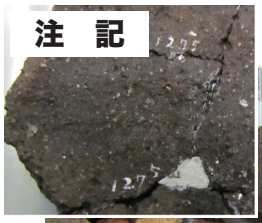
1. 素材による分類 土器・陶器・石器・木器・ 金属器など【素材分類】
2. 素材分類別に時代・時期・器種の分類【時代・器種分類】
3. 素材分類や時代・器種分類別に、接合関係の検討【接合】
4. 素材分類や時代・器種分類別に、出土遺物の点数・ 重量の記録【統計的記録】
5. 大きく接合できる個体について、全体の形が分かるようにする【復元】
6. 特徴的遺物について、実測図化および写真撮影【考古遺物資料化の作業】
7. 必要に応じて理化学的分析の実施
8.1 ～ 7 の分析・検討結果と発掘調査記録と照らし合わせの、遺跡の総合的検討

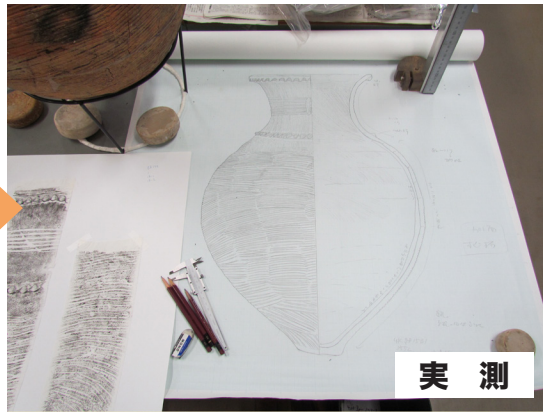
※５の復元が行われた資料は、展示などで活用される機会も多いようです。

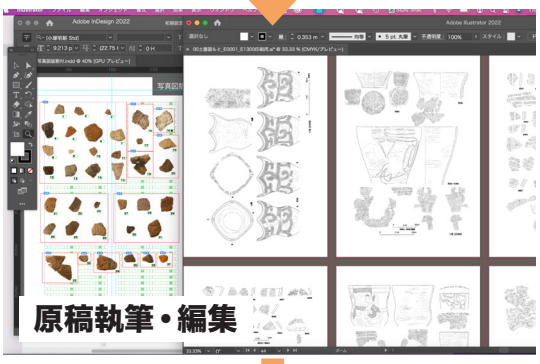
整理調査の成果は、最終的には発掘調査報告書という書籍の形に編集・刊行されます。発掘からの一連の調査成果が広く一般に公開される形となるのです。

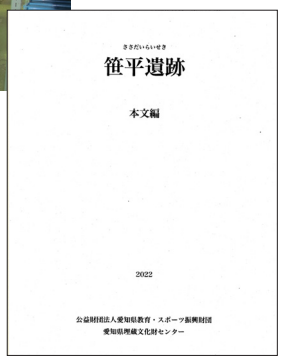
整理調査の成果

笹平遺跡では、縄文時代早期・中期・後期・晩期・弥生時代・古代と、縄文時代を中心に極めて長い期間にわたって利用されていて、特に、縄文時代後期初頭～晩期にかけての集落の情報がとても充実していました。各時期で見ても、遺構分布と包含層形成の在り方との一致あるいはズレがあるようです。土器に関して言うと、遺構の位置と統計的処理から算出された細片化率との関係は、例えば建物跡の凹地を利用して捨て場（送り場）が大きくなっていくなど、縄文時代のヒトたちの重複を意図した土地利用の反復性を考える上で、興味深いものがあります。また、発掘調査の段階では遺構の存在はよく分からなかった縄文時代早期の場の利用についても、室内整理調査の結果、推定を行うことができました。



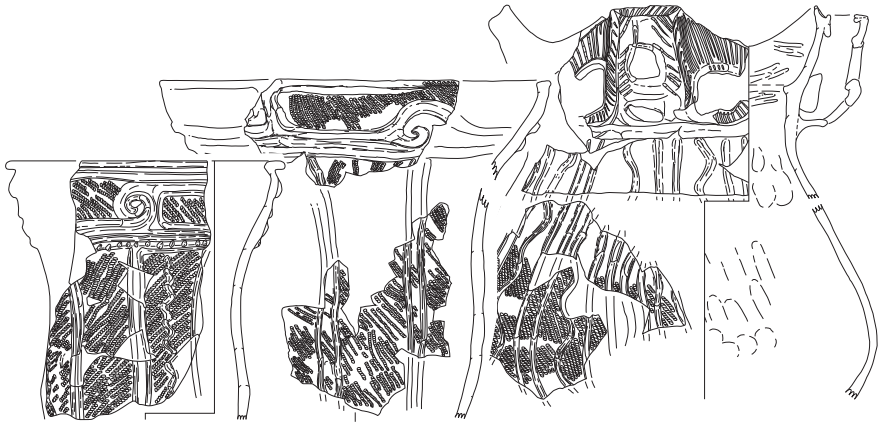




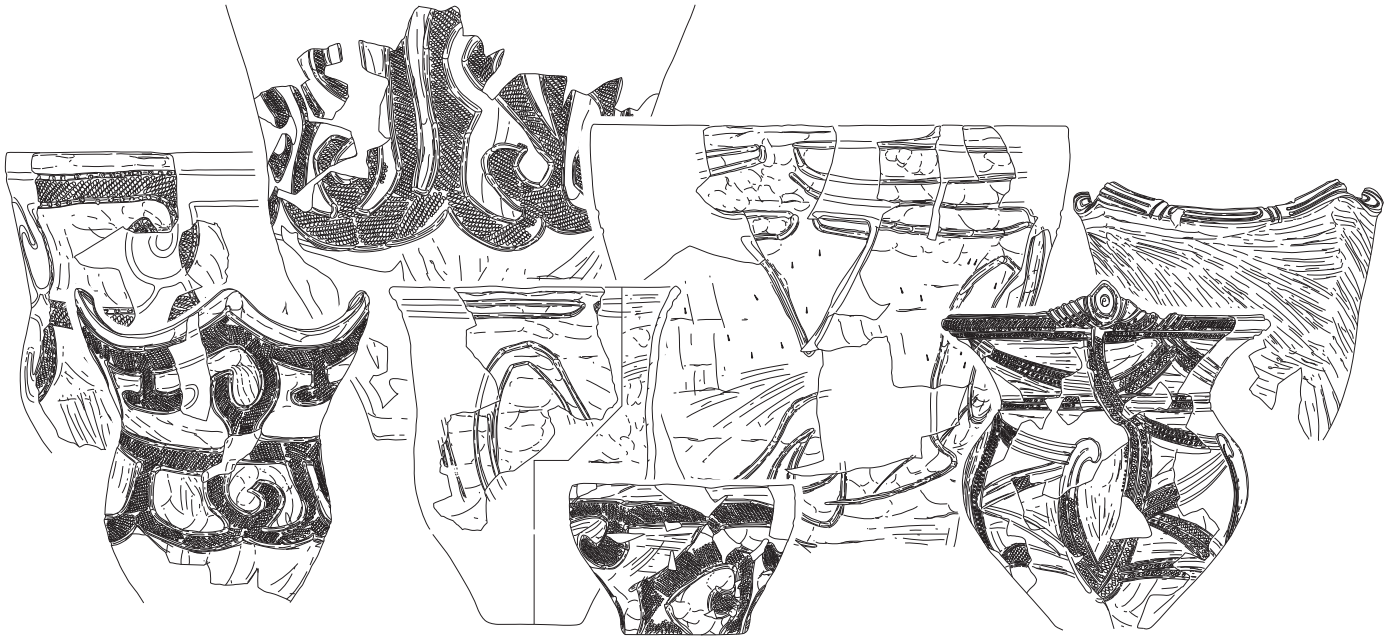


報告書印刷
刊行

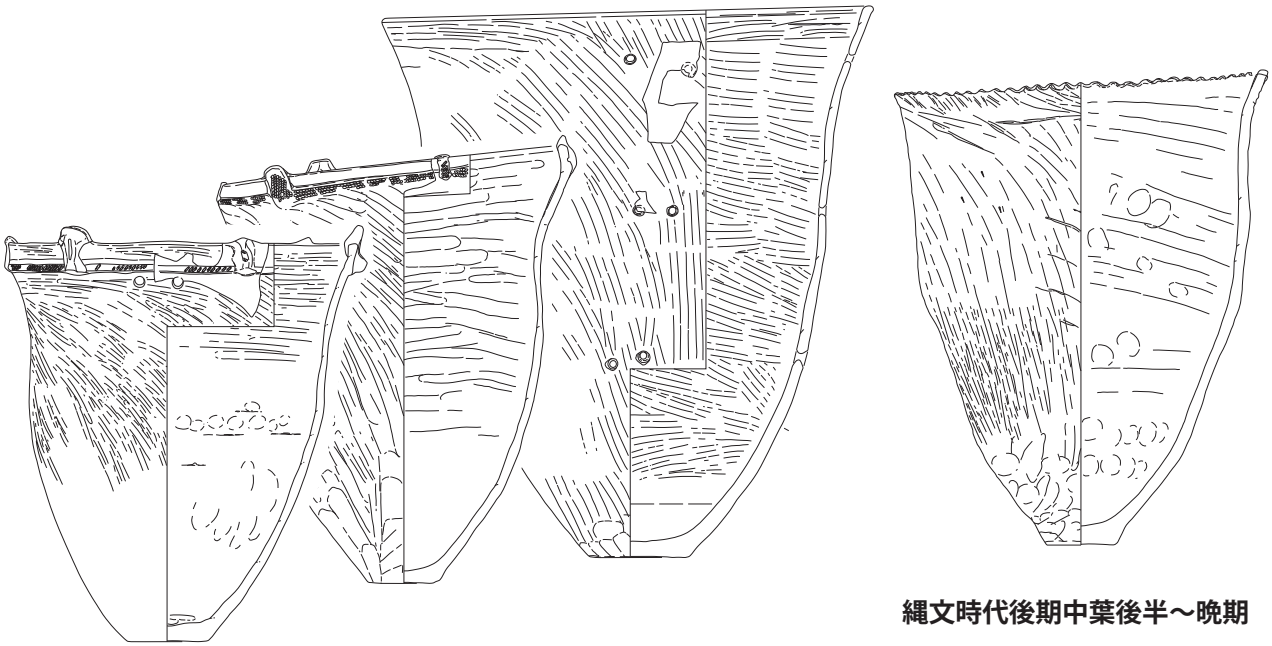
室内整理調査の各作業と報告書刊行までの流れ



縄文時代中期後半



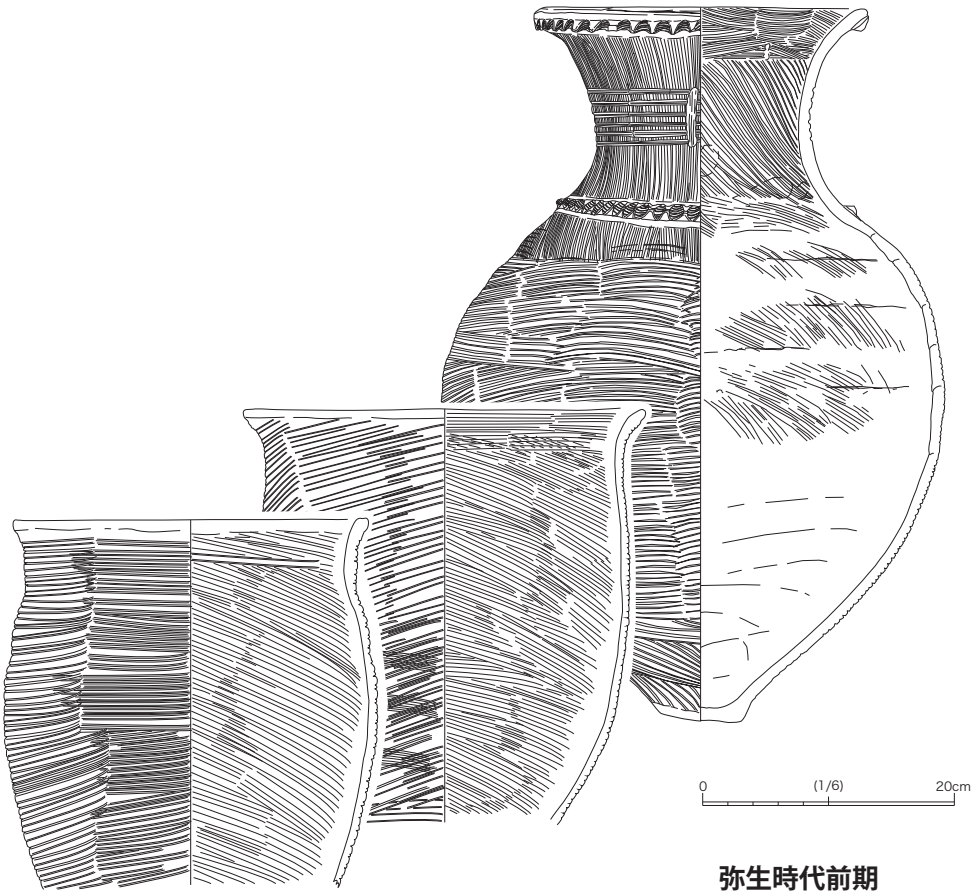
縄文時代後期初頭〜前葉 / 中葉前半



縄文時代後期中葉後半〜晩期

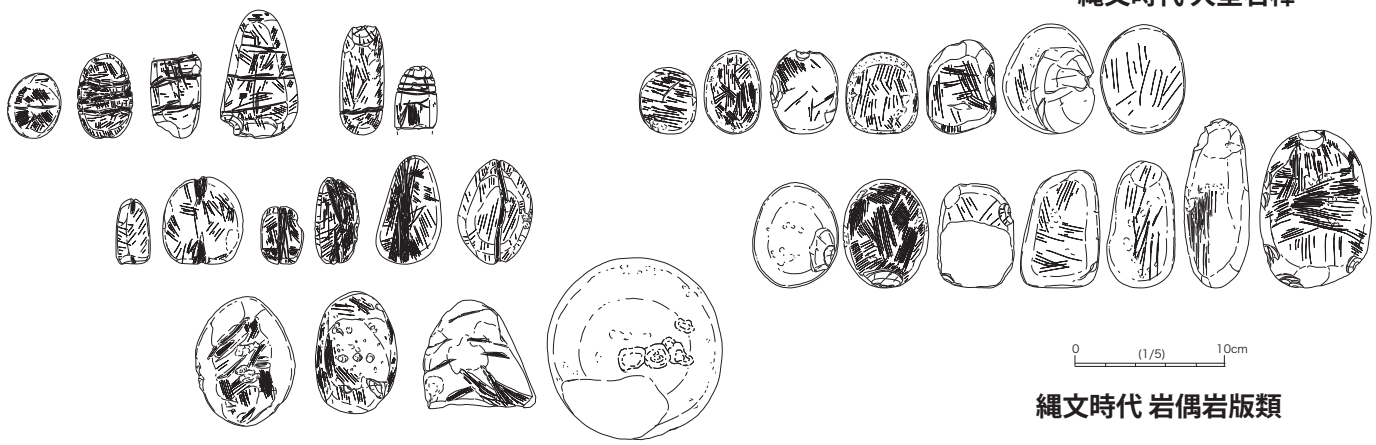
0 (1/6) 20cm

笹平遺跡　主要出土土器集合



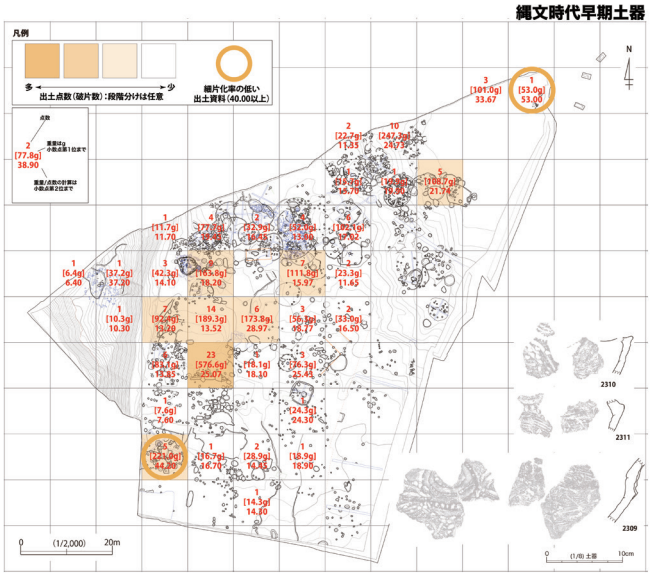
弥生時代前期

縄文時代 大型石棒

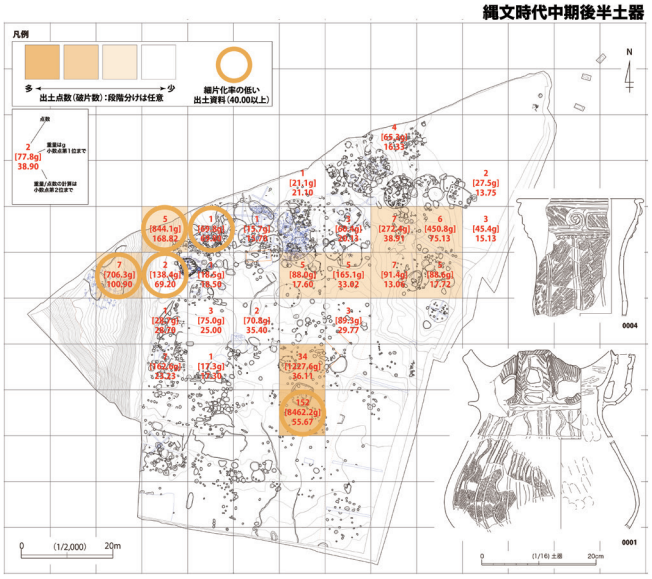


縄文時代 岩偶岩版類

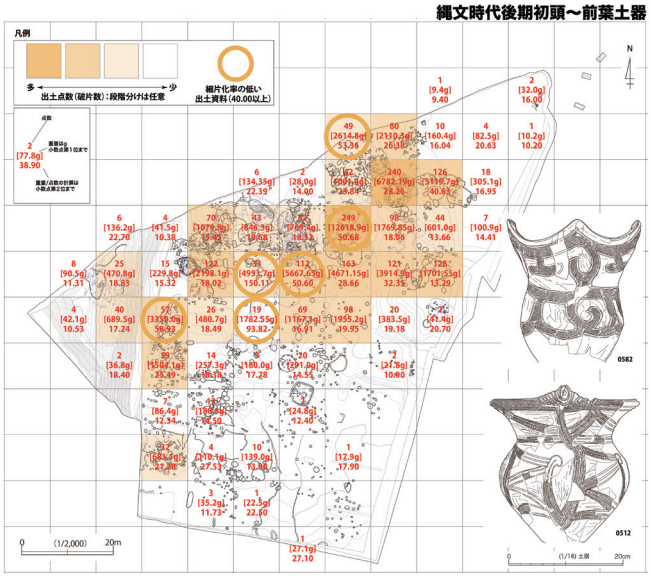
縄文時代早期土器



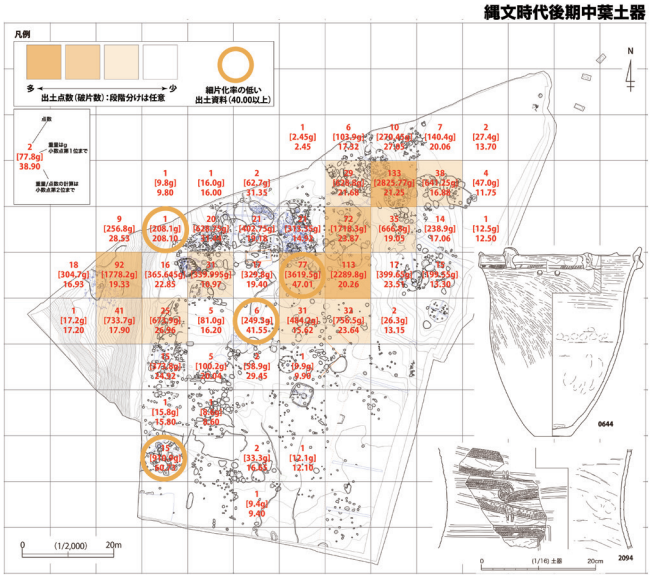
縄文時代中期後半土器



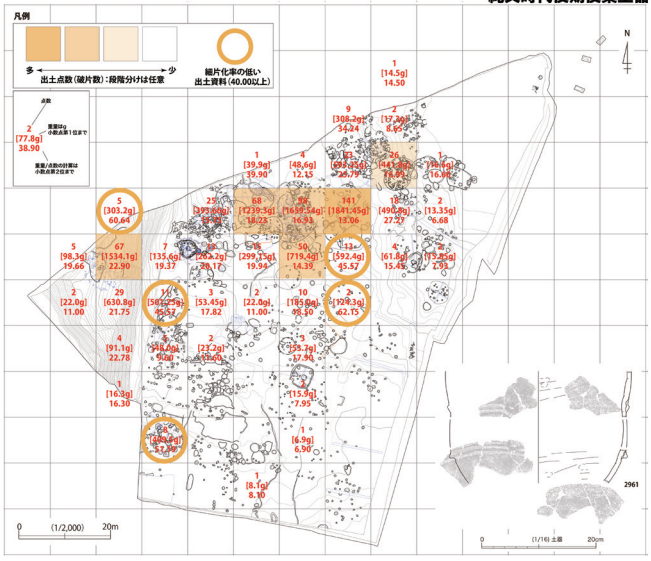
縄文時代後期初頭～前葉土器



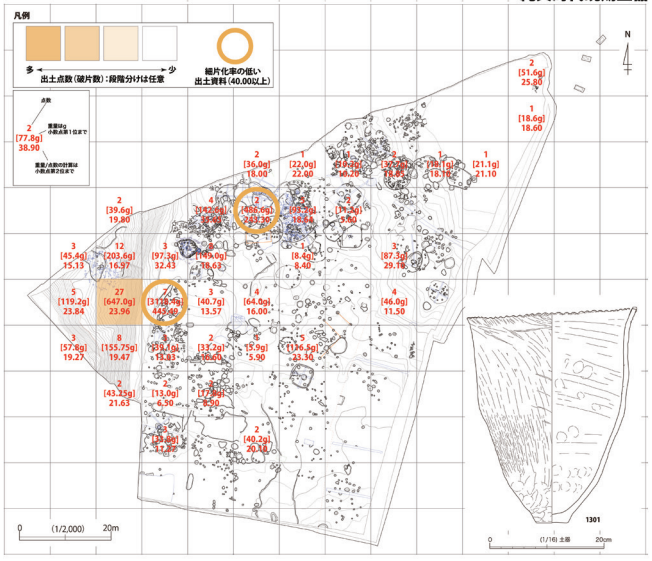
縄文時代後期中葉土器



縄文時代後期後葉土器

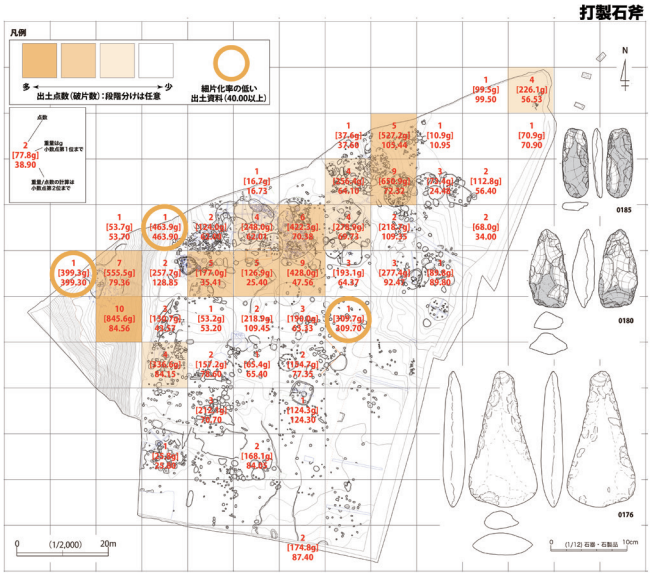


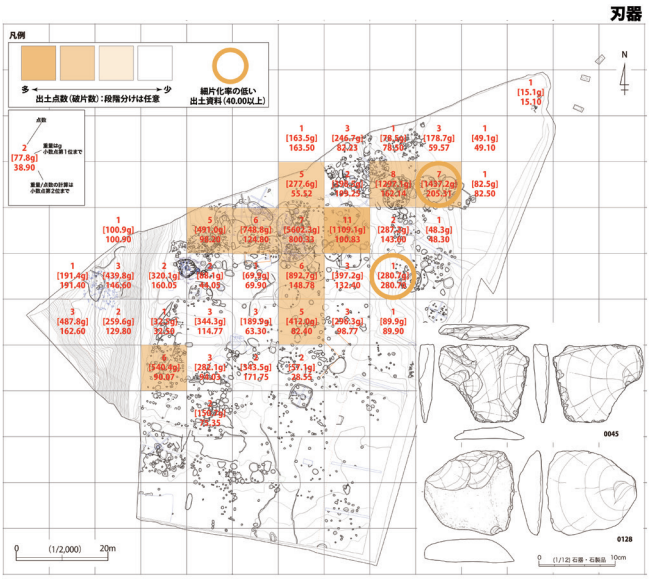
縄文時代晩期土器

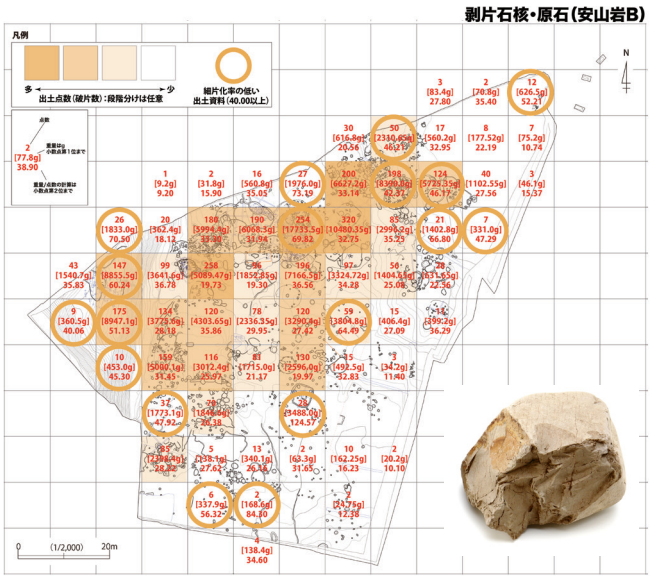


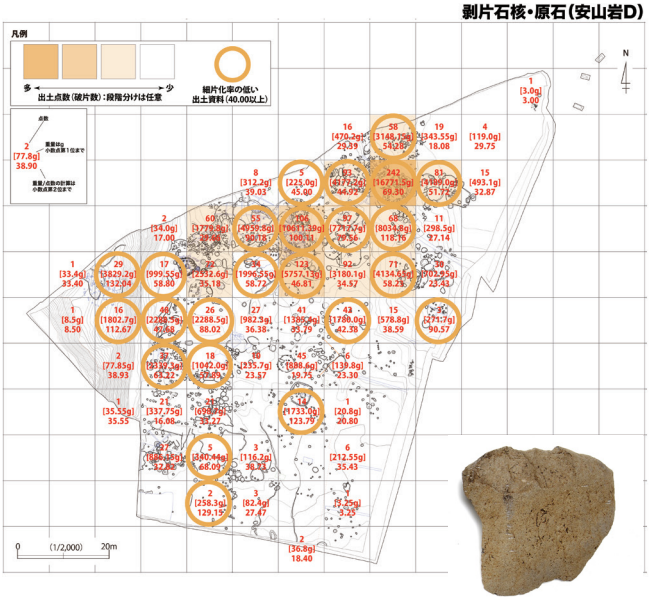
笹平遺跡　遺物出土状況（縄文土器）

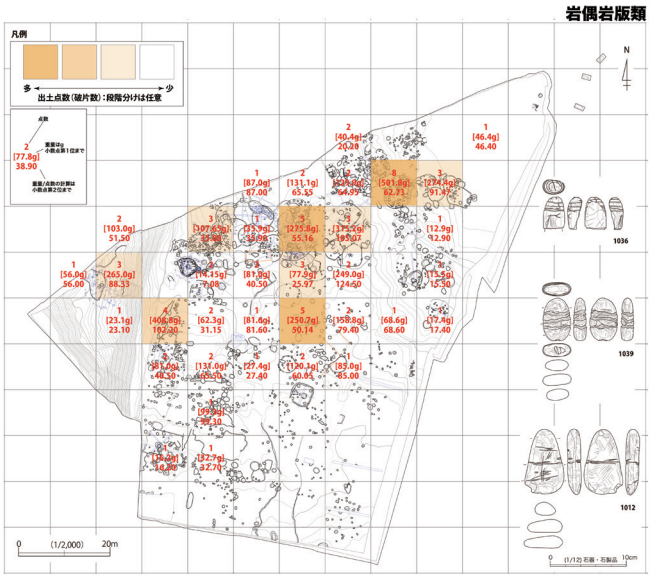
グリッド（マス目）に塗られた色の濃さは、出土点数の多さを示しています。また、○付けたグリッドは、細片化率の低いことを示しています。つまりは、破片の大きな資料が出土していることを示しています。

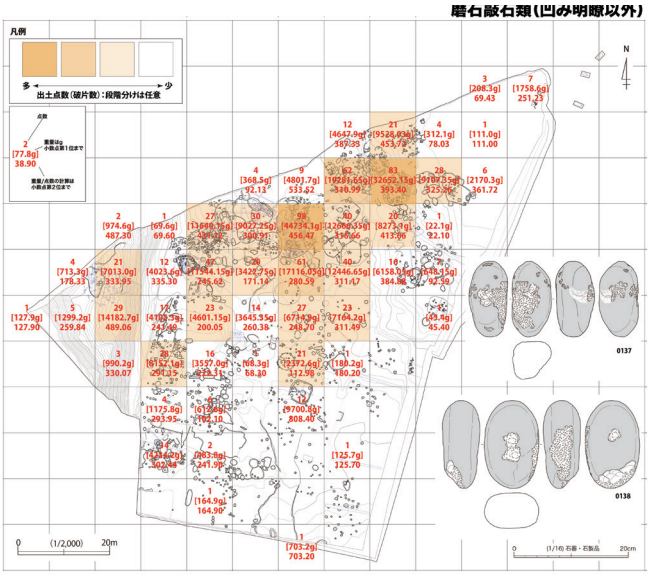












笹平遺跡　遺物出土状況（石器・石製品）

遺跡の形成過程を復元するには、特定遺物の出土場所を示すほかに、このように各種遺物全体の傾向を把握する必要があります。これが遺物包含層の一つの分析方法で、発掘調査で確認された各遺構の位置と比較すると、遺跡の様相がより鮮明になるのです。

年代	時代	主なできごと	愛知県の遺跡	上ヲロウ・下ヲロウ遺跡	下延沢遺跡	大崎遺跡
3500年前0	後期旧石器時代	台形様石器・ナイフ形石器・局部磨製石斧の出現	上品野遺跡（瀬戸市）			
3000年前0		鹿児島県姶良カルデラ（A.T.）の降灰				
2500年前0			茶臼山遺跡（豊根村） 駒場遺跡（豊川市）			
1500年前0	草創期	土器の発明・弓矢の使用 氷河期が終わる	萩平遺跡（新城市） **川向東貝津遺跡（設楽町）** **滝瀬遺跡・大栗遺跡（設楽町）**			
6000年前0	縄文時代 早期	貝塚の形成 気候の温暖化による海進	多り畑遺跡（豊橋市） 大安寺遺跡（豊田市） **鞍舟遺跡（設楽町）** **石原遺跡（設楽町）** **大畑遺跡（設楽町）**			★→☆?
5000年前0	縄文時代 前期		**大根平遺跡（設楽町）** **西地・東地遺跡（設楽町）**		★	★
4000年前0	縄文時代 中期		モリ下遺跡（新城市） 石岸遺跡（新城市） **笹平遺跡（設楽町）** **大名倉遺跡（設楽町）**	★		★
3000年前0	縄文時代 後期	寒冷化し、海退した低地にも生活を始める	吉胡貝塚（田原市） 宮嶋遺跡（豊根村） 麻生田大橋遺跡（豊川市）		★	★
250年前0	縄文時代 晩期	抜歯風習の盛行	桜平遺跡（東栄町） 白石遺跡（豊橋市） 瓜郷遺跡（豊橋市） **上ヲロウ・下ヲロウ遺跡（設楽町）**			★
A.D.1年	弥生時代	土器棺墓群が形成される 稲作の開始　環濠集落の出現	西向遺跡（東栄町） 欠山遺跡（豊川市） 馬越長火塚古墳（豊橋市） **屋木下古墳（設楽町）** **丸根古墳（設楽町）**			★
300年	古墳時代	金属器の使用・銅鐸の使用 女王卑弥呼邪馬台国を統治する 大和政権の出現・各地に古墳の造営 仏教の伝来				
600年	飛鳥時代	645年　乙巳の変（大化の改新） 710年　平城京遷都				
700年		743年　東大寺大仏建立の詔・国分寺	三河国分寺跡（豊川市） 白鳥遺跡（豊川市）			
800年	奈良時代	794年　平安京遷都				
900年	平安時代	藤原氏の摂関政治				
1000年						
1100年		武士の台頭 1192年　源頼朝鎌倉幕府を開く		★		
1200年			普門寺跡（豊橋市） ブヤキ窯跡（東栄町）	★		
1300年	鎌倉時代	元寇（文永・弘安の役）				
1400年	室町時代	1338年　足利尊氏室町幕府を開く				★
1500年		1467年　応仁の乱	**武節城址（豊田市）** **田峯城址（設楽町）** **津具城址（設楽町）**			
1600年	戦国期	1575年　長篠の戦い		★		★
1700年	江戸時代	1603年　徳川家康 江戸幕府を開く	吉田城跡（豊橋市）			
1800年	安土桃山時代					
1900年	近代・現代	1867年　大政奉還				
2000年		1945年　太平洋戦争終結				

下延坂遺跡 1110SI 集石調査風景

令和３年度
設楽ダム関連発掘調査成果報告会

新設楽発見伝８ 配付資料

令和４年３月 12 日　発行

編集・発行
公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター

企画担当・編集
鈴木正貴・樋上　昇・川添和暁

〒498-0017　愛知県弥富市前ヶ須町野方 802 の 24
電話 (0567) 67 - 4163【調査課】

HP http://www.maibun.com
Facebook https://www.facebook.com/maibunaichi
Twitter https://twitter.com/aichi_maibun